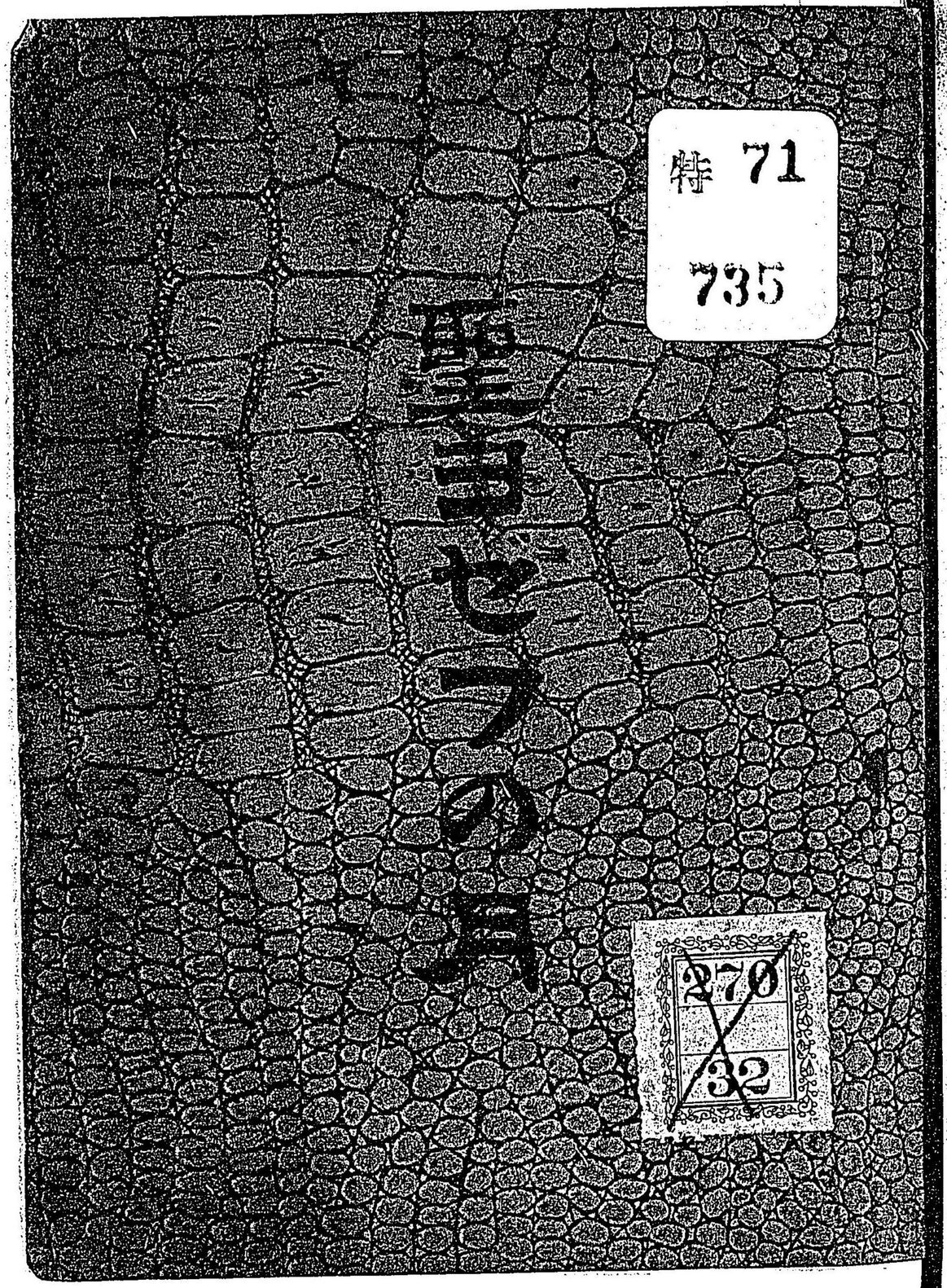


301318-001-7

特71－735

聖ヨゼフの月

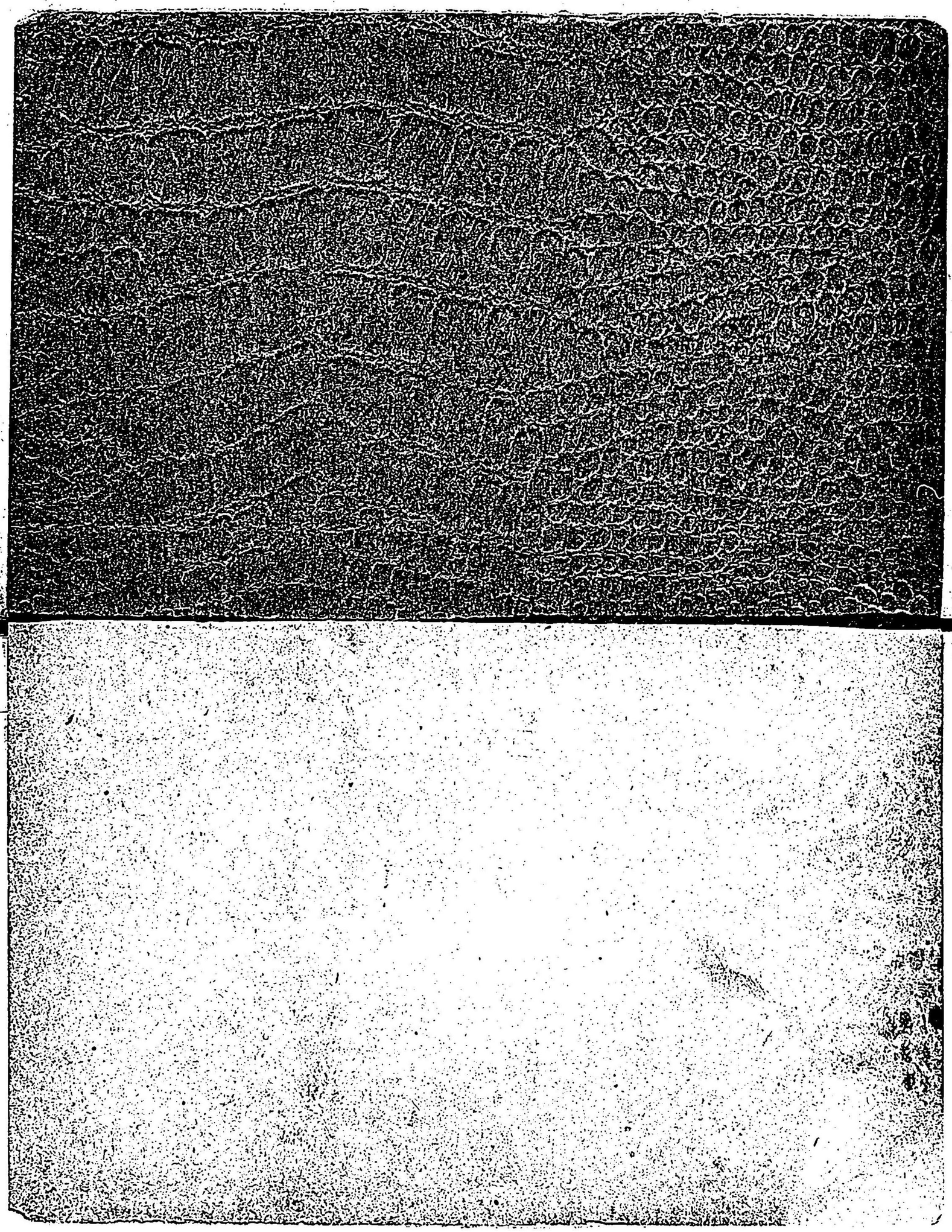
天主公教会ノ編

M45. 3

ABI－0001

聖ヨゼフの月

71
735
270
32

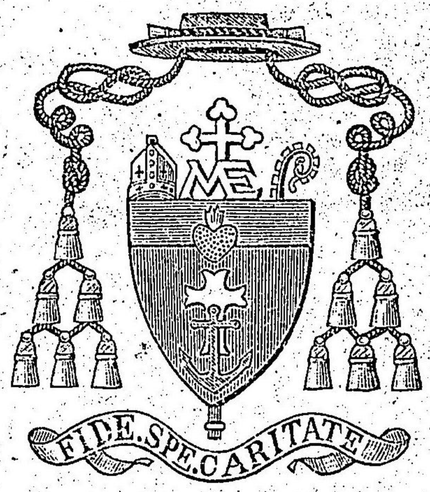


聖母の月

Imprimerie Saint-Joseph, Osaka
45. 3. 12
内交

4등71
735

大阪司教儒利譽准



天主降生千九百十二年二月於大阪

Imprimerie Saint-Joseph, Osaka

聖ヨゼフ我等の爲に祈り給へ

緒言

哀憐深き天主の聖子は一切人間の罪を贖ふ爲に、天降つて人となり童貞聖マリアより生れ出でさせらるゝに當つて、其聖母を保護する配淨なる者又御自分を撫育つる養父なる者を御選みになつた。此重大な任務を授られた者は即ち聖ヨゼフである。凡そ世に天主の母なる聖マリアを除くの外、聖ヨゼフ程位尊貴く權力の高大い者はあるまい。又聖ヨゼフは天主より我々信者の慈父、保護者模範と定められた者である。昔大祖ヤコボの子ヨゼフがエヂプトに於て大宰相の位に登つたとき、王フアラオは

自分に物を願ひ出る者があれば、彼等に汝等ヨゼフに往けよと命じた。今天主は、我等に聖家族の長なる聖ヨゼフを指して斯く仰せらるゝのである。聖ヨゼフが我等の爲に聖子の尊前に爲らるゝ傳達は博士ゼルソンも曰ふた如く普通の依頼ではなく一種の命令である。古より今日に至る迄、聖ヨゼフの御傳達の功徳の顯著しい例は尠くはない。聖女テレジアも「自分は今迄聖ヨゼフに頼んで一度も聽容れられなかつたことがない」と云ふた。故に聖公會の初代より信者は聖ヨゼフを深く尊敬して其御保護に依り縋るのである。又聖ヨゼフに對する崇敬の道は日を追ひ年を重ねるに隨つて愈々盛大となり、聖公會に於ては年の

三月十九日を以つて聖ヨゼフ聖母の淨配、聖會の擁護者の祝日と定めた外に、御復活後第三の主日を聖ヨゼフの擁護の祝日とし、毎週間の水曜日を以て、特に聖ヨゼフを敬禮するの日と定め、又十月ロザリオの月中には特別聖ヨゼフに祈るやうに勸奬められてある。されば聖ヨゼフを尊敬することは聖公會の旨に從ふことで、又最も耶蘇キリストの聖意に適ふ行爲である。

不肖は兼てより何か聖ヨゼフの崇敬に關する事を略記して、之を吾敬愛なる信者諸君に提出したいものと愚考へる折柄、某神父は不肖に一冊の書を與へられた。題して Guirlande à Saint Joseph と云ひ、專ら少年の爲に著はされたる簡單なものでは

あるが、諸大家の聖ヨゼフに就ての教訓や事實話を集輯めた言簡にして意盡せる一の巻書であつた。該書の中より所々拔萃して一小冊子を編むことゝした。然に材料は精良であつたが、遺憾なことには細工人の技術が未熟ので、文辭、用語などの拙い事は曰ふまでもなく、皆目物にはなつてない、併し暫く他に巻書の世に著はるゝを俟つて、聖ヨゼフを崇敬するの資とし、併せて拙著者の爲に一偏の祈禱を聖公會の擁護者聖ヨゼフの御前に献げらるゝならば幸甚である。

明治四十四年十一中旬

編者謹識

目次

一日 ヨゼフの聖名 一
二日 ダビドの譽高き後裔なる聖ヨゼフ 五
三日 童貞マリアの操正しき守護者なる聖ヨゼフ 九
四日 天主の聖子の養育者なる聖ヨゼフ 一三
五日 天の聖父の温和の肖像なる聖ヨゼフ 一七
六日 天主の聖慮に適ひたる聖ヨゼフ 二三
七日 最も貞操なる聖ヨゼフ 二六
八日 最も愼み深き聖ヨゼフ 二九

九日　最も謙遜なる聖ヨゼフ　三三
十日　最も従順なる聖ヨゼフ　三七
十一日　最も忠實なる聖ヨゼフ　四一
十二日　天主の祕密を守りし聖ヨゼフ　四五
十三日　天主に試を受けたる聖ヨゼフ　四八
十四日　堪忍の鑑なる聖ヨゼフ　五三
十五日　天主の御思召に身を任したる聖ヨゼフ　五七
十六日　清貧の愛好者なる聖ヨゼフ　六〇
十七日　職人の模範なる聖ヨゼフ　六五
十八日　家庭生活の榮譽なる聖ヨゼフ　六九

十九日　家庭の柱石なる聖ヨゼフ　七三
二十日　不幸者の慰安なる聖ヨゼフ　七八
廿一日　死に臨める人の擁護者なる聖ヨゼフ　八二
廿二日　煉獄の靈魂の扶助なる聖ヨゼフ　八七
廿三日　信德の模範なる聖ヨゼフ　九〇
廿四日　望德の模範なる聖ヨゼフ　九五
廿五日　愛德の模範なる聖ヨゼフ　一〇〇
廿六日　信心の模範なる聖ヨゼフ　一〇四
廿七日　罪人の依托なる聖ヨゼフ　一〇七
廿八日　基督信者の扶助なる聖ヨゼフ　一一二

目次

廿九日　幼児と青年の擁護者なる聖ヨゼフ　一一六
三十日　修道者の模範なる聖ヨゼフ　一一九
三十一日　聖公會の保護者なる聖ヨゼフ　一二四
聖ヨゼフの連禱　一二八
聖ヨゼフに祈る文　一三二
聖家族に對し奉るの祈禱　一三三
聖族に依頼み奉るの祈禱　一三五

終り

聖ヨゼフの月

第一日　ヨゼフの聖名

何れの時代又如何なる邦國に於ても、世に子女が生るゝならば、父母は其子女の將來を祝ひ、佳名を選んで之に命くるは、貴賤、貧富の差別なき世の慣例である。聖公會の博士等の傳に依ると、聖ヨゼフの父母は彼が世に生れられたとき、之に適當な名を命けたいものと天主に祈請をし、其默示を受けて、ヨゼフと云ふ名を選んだのである。さうして見れば此名を選んだ者は人間ではなく、天主であるから、其名の尊いことは云ふまでもな

い。聖ベルナルドは「聖ヨゼフとは誰であるか、又如何なる人物であるかと知りたい者は其名の意味を熟考へるがよい、其名には増加、繁殖。成長などの意義があつて、よく聖ヨゼフの徳に適當ふてある」と云ふた。恰當流絶ねぬ河岸に植わつた草木が何時も蒼々と茂り榮えるやうに、聖ヨゼフは日夕聖寵の源なる耶蘇キリストと聖寵の分配者なる聖マリアとの側に在つて其

感化を受け、恵に潤ひ、聖寵は日に増し月に殖え其徳愈々盛んであつた。聖ヨゼフの御名は幼き耶蘇が、其腕に抱かれ、其膝に載せられて、可愛しい口に唱へ給ふた名であるから、信心と熟愛とを以て此名を唱ふるのは耶蘇の光榮ともなるのである。

惡魔の誘惑に逢ふて、聖ヨゼフの聖名を耶蘇マリアの聖名に併せて唱ふる者は必ず之に打ち勝つことが出來る。朝目の覺るとき、耶蘇、マリア、ヨゼフの聖名を唱へて唱ふる者は其日に勝多の恩寵を授かり、夜に入り床に就くとき信心を以て此聖名を唱ふる者は必ず特別な御保護を蒙るのである。凡て平素敬虔を以て此聖名を唱へる者は必ず臨終の時に此聖名を唱へながら安全に此世を去つて天國に行くことが出來る。

實話

福者ガスパル、ボンは深くナザレトの聖家族を敬愛し、耶蘇、マリア、ヨゼフの聖名を心に念じ、口に唱ふることを何より

も樂として、他人と談話をし、挨拶する前後には必ず耶蘇、マリア、ヨゼフの聖名を唱へ、家を出るには耶蘇、マリア、ヨゼフの聖名を唱へ、家に入るには耶蘇、マリア、ヨゼフの聖名を唱へ、日として之を唱へぬ日はなく、時として之を唱へぬ時はなかつた。耶蘇、マリア、ヨゼフの聖名は彼の口には甘き蜜、耳には美妙なる音樂のやうであつた。彼は臨終に迫つたとき、側にある修道士等に耶蘇、マリア、ヨゼフの聖名を唱へさせて、之を聞いて斷末魔の苦を忘れ、自分の口にも耶蘇、マリア、ヨゼフと唱へながら安穩に此世を去つた。

祈願

主耶蘇、汝は曾て世に在せしとき、聖ヨゼフを父として之に奉仕へ、其命令に從ひ給ひたり。聖ヨゼフの御位や尊く權力や大なるかな。希はくは我等をして聖ヨゼフの聖德に倣ふて行を修め、其聖名を以て我等に來る惡魔の誘惑に勝たしめ給へ。

第二日　ダビドの譽高き後裔なる聖ヨゼフ

聖ヨゼフは、民間に在つて、身分卑い木工の職を營んで居られたが、其先祖と云へば、ダビド聖王である。其天主より授かられた位と云へば、救世主の養父である。耶蘇キリストを生まれた、聖マリアの天主の實母たる位を除いて、聖ヨゼフの天主

の養父たる位より貴い位は二とはない。又天主が人に緊要な職務を授けらるゝには、必ず其職務を奉ずる爲に必要なる權利も授けられるのである。故に聖ヨゼフに父となつてナザレトの聖家を治める聖き職務を授けられたならば必ず聖マリアを吾妻とし、耶蘇キリストを吾子として司配し、彼等に命令を下す權利をも授けられたのである。世に天主の子と天主の母を司配し之に命令を下すより優れて譽れ高き務はなからふ。

（6）

聖ヨゼフは世に在つて、位貴く、譽高かりし程、天國に於て愈々位貴く、譽高く、天の聖父は聖ヨゼフを忠臣、義士として其德を天使、諸聖人の前に表彰し、聖子は彼を御自分の養父恩人として尊び、聖靈は彼を內室の忠實なる保護者として愛せられた。

加之聖フランシスコ、サレジオの曰はれし所に由れば、聖ヨゼフの御肉身は已に復活つて其靈魂と共に天の光榮と幸福を受けて居らるゝとのことである。聖母マリアに此特恩を與へられた耶蘇が、同一特恩を聖ヨゼフにも與へられたと信ずるのは毫も道理に悖つたことではない。

（7）

實話

聖女テレジアは曾て世に在つたとき、聖ヨゼフの聖德を讃美め其光榮を發揚ぐる爲、最も熱心に力を盡されたが、死して後

も尚其務を廢せられなかつた。彼が聖公會より聖女の位に列せられたとき、聖テレジアの苦心慘憺に由つて建設てられた夥多のカルメル會修道院に在る修道女等は聖テレジアを以て各々其修道院の守護に定むることを總會長に願ひ、總會長も其願を至當として、之を認可された。然に或日聖テレジア（8）は一人の修道女に出現れ、自分の名を除いて、聖ヨゼフの名を付けることを命じられた。因是見之聖ヨゼフを尊敬するは最も聖テレジアの意に適ふことで、聖テレジアの援助を願ひたいものは、必ず聖ヨゼフにも信心せなければならん。

祈願

聖ヨゼフを選びて、ナザレトの聖家の主となし給ひし天主、希はくは我等をして、地に於ては其御位を尊び、其光榮を讃美し、天に於ては彼と共に幸福を享くるに耐ゆべきものとならしめ給へ。

第三日　童貞マリアの操正しき守護者聖ヨゼフ

聖ヨゼフは、聖マリアの童貞の操を守護し且之を保證する重大な任務を授かられた者である。此事に就て、博士ボスエは左の如く曰ふた。「聖ヨゼフが聖マリアの童貞の操を守護し、之を保證する任務を授かられたことが、彼に如何ほど幸福、如何ほ

ど光榮であるかと、辨る爲には、童貞の操が如何に神聖、如何に緊要な德であるかと知らねばならん。抑も救主を此世に降らせたものは、童貞の操である。天主の聖子が人となつて、此世に生るゝには、必ず潔白なる童貞の胎内より生るゝことは、是れ永遠の元始に定められた、天主の攝理であつて、豫言者等は屢次之を告げ、大祖等は絕ねず之を希望し、終に其預言の成就した事が聖福音書に記載れた。」と、又ニスの聖グレゴリオの曰ふたには「天主をして、人間と共に生活させるやうにならせたものは、童貞の操である。天に騰る翼翅を人に與へたものは童貞の操である。罪惡の爲、惡け離れ、疎遠かつた天主と人間

との中を調和して、互に親睦ならしめたものも童貞の操である」と、聖マリアは、童貞の中にも、最優れたる童貞なるに由て天主は特に之を選んで、救主の母と爲し給ふたのである。又聖マリアの童貞の德を保護し之を世に保證する爲に特に聖ヨゼフを選び給ふたのは、聖ヨゼフも亦童貞の中に優れたる童貞であつたからである。由是觀之聖ヨゼフは天主より授かられた任務の上から觀ても、自分に修められた德の上から觀ても實に優れた聖人である。

實話

聖アロオジオ、ゴンザガは聖ヨゼフに對して、信仰の念篤く

常に其聖德を感慕ひ、特に其貞德を愛し、之に倣ふあとを努めた。遂に聖ヨゼフの貞德は聖アロイジオに映り輝いて、白百合の如く清らかに花咲き、芳しく薫香を放つて、人々は彼を稱けて形骸ある天使と云ふた。其年僅二十二にして、功德充ちて天國に昇つた。人々は聖アロイジオの永眠したことを聞いて、其遺體の側に集つて來たが、彼が生涯身に修めた德、殊に其貞德は已に死したる其顏色に顯はれ、皇々として輝き、此世の者とは思はれなかつた。聖アロイジオの肉體が死んだ其時已に其程光榮を帶びてあつたなら、世の終り復活の時は如何でおらう。

祈願

主耶蘇キリスト、汝は童貞なる聖マリアを撰んで、母となし、之を守護せしむるにも亦童貞なる聖ヨゼフを以てし給へり。我等貞德は是れ如何に汝の好し給ふところなるかを知り奉る。希はくは我等をして各々我身分に當る貞操を守らしめ給へ。此聖寵を聖母及聖ヨゼフの傳達を以て願ひ奉る。

第四日　天主の聖子の養育者聖ヨゼフ

吾主耶蘇キリストは、十字架の上に在て、「我神よ　我神よ、何ぞ我を棄て給ひしや」と、聲高く呼はれたが、此御言葉は、一切

人間を救ふ爲に、此世に降り給ふ始に曰はれることが出來たのである。何故なれば、天の聖父が聖子を此世に遣り給ふたのは艱難、恥辱、十字架の死をも凌がせる爲であつた。此點から考へて見ると、天の聖父が聖子を此世に遣られたのは、聖子を棄て給ふたのである。併ながら聖父は聖子を全く忘れざる證據として、自分に代り、彼を保護する一人の養育者を選ばれた。此重大な任務に充てられた者は即ち聖ヨゼフである。聖ヨゼフは此重大い任務を授かつたことを天主の深い恩寵と感じ、生の父にも優る愛情を以て耶穌を養育し、一生涯身も心も天主の聖子の保護と養育とに盡された。故天主の聖子は假令へ聖父に棄て

られても、聖ヨゼフの親切なる保護と養育とを受けて、大に慰藉めらるところがあつた。斯やうに聖ヨゼフは曾つて世にあつたとき、救主を養育、保護する爲、忠實に力を盡された者であるから、今天にあつて、救主が其血を以て買得たまへる我等を憐み顧み給ふのである。

實話

佛蘭西のオーブ縣に熱心な一人の婦人があつた。其婦人が、聖ヨゼフの援助に由つて、不思議な天主の惠を受けた顚末を陳述べて、次の物語をした。父母の其子に對する愛情に甲乙の差別のあるべき筈もなけれども、何となく末の子程は可愛も

のである。然に我家の末子の兵役中に戰爭が起りベルフオルの戰に出ねばならんことゝなつて、遂に彼も戰場に趣いた。一家の者等が彼の無事に凱旋して、歸り來るの日を偏に祈て居た甲斐もなく、數日ならずして、我末子の戰死の報告を受けた。其時の我等一家の悲は實に譬へようもなかつたのである。然に其後十五日を經て、無思掛も、彼は最強壯かに家に歸つて來た。一家の者等は之を見て、實に死んだ者が甦へつたやうに、歡喜に堪へずして手の舞ひ足の踏む所を知らなかつた。而して彼は、自分が危難を免れ九死に一生を得て無事に我家に歸ることを得たのは、是れ全く我家の御守護なる

聖ヨゼフの御惠である。聖ヨゼフの御守護がなかつたなら、倒底我は今日我父母や兄弟に會ふことが出來なつかたのであると曰ふた。

祈願

聖ヨゼフを選びて、聖子の養育者と爲し給ひし天主、希はくは彼をして我等の保護者とし、諸〻の危難の中に我等を助けし め給へ。

第五日　天の聖父の溫和の肖像なる聖ヨゼフ

福音聖書中に、聖ヨゼフに就て書かれてある事を見れば直に聖

ヨゼフは耶蘇キリストの父であると判る、耶蘇キリストの御誕生後八日目に之に名を付けた者は聖ヨゼフである。ヘロデ王が耶蘇を殺さふとしたとき、天使の告を受けて、耶蘇と其母とを携れて、エジプトに逃れ、ヘデロ王が死んで、又天使の告を受けて、彼等を携れイスラエルの地に歸つたのも聖ヨゼフである。

聖マリアと聖ヨゼフはエルザレムに於て耶蘇を見失ひ、之を索ねて三日目に聖殿の内に見當られしとき、聖母は耶蘇に向ひ、「看よ汝の父と我とは憂ひつゝ汝を尋ね居たり」と曰ふて、聖ヨゼフを殊更に父と呼ばれてある。又聖ルカ福音書に「耶蘇はナザレトに至りて彼等に順ひ居給ひし」と書いたのは、聖ヨゼフ

も聖マリアと同じく耶蘇に對して親の權利があつたと示す爲である。如斯聖ヨゼフは耶蘇に對して親の權利があつたから、耶蘇は如何なる仕事も、例之臺所の用事から、水汲、家の掃除、はては鉋を掛け斧を執るなどの荒仕事に至るまで、惟聖ヨゼフの命の儘に從はれたのである。

耶蘇が斯まで謙られたのは、是れ聖ヨゼフの位の貴い證據で實に聖マリアを除いて、聖ヨゼフほど位貴い聖人は一人もないのである。隨つて聖ヨゼフは、他の聖人等に超えて、特別尊敬すべきもので、又之を尊敬するのは、吾主耶蘇の大に喜び給ふ所である。主は曾てコルトナの、聖女マルガリタに現はれて、

毎日少しなりとも、我忠實なる養父ヨゼフを尊敬せよと仰せられた。

實話

佛蘭西のリヨン市に至つて熱心な公教信者があつて、其家に怜悧温順な一人子があつた。父母は之を幼少の時から、公教の旨に隨つて教育し、漸く成長するに隨つて益々天主の聖寵を受け、遂に此世間を全く棄てゝ修道者となり、專ら天主に仕へるやうに聖寵の勸を受けて、之を父母に告げた。然に父母は世情の愛に牽かされて之に承知せず、子も亦聖寵の勸に從ふよりは、父母の意に從ふて、聖き招に應じなかつた。其

後初の熱心は漸次に冷め、信仰は追々衰へ、心亂れ、智恵暗み種々の悪事を行ひ、遂には監獄にまで入られるやうな身になつた。父母は今更のやうに目が覺めて、曩に天主に背きしことを深く悔み、子の改心を祈る爲に、聖ヨゼフに傳達を願ふて九日の修業を行ふた。聖ヨゼフは彼等親子を憐んで、改心の惠を賜はり、子の心は俄に改まり大に前非を悔いて家に歸り、只管父母に赦免を願ふた。其家に歸つて來た日は恰當九日修行の終りの日であつた。親子三人は聖ヨゼフの祭壇の前に伏して、天主と聖ヨゼフとに其鴻恩を感謝した。

祈願

吾主耶蘇、汝は人となつて、世より降り、聖ヨゼフを父として之に奉仕へ人々に孝行の道を教へ給へり。希はくは我等をして、我長者に奉仕ふること、汝が聖ヨゼフに奉仕へ給ひし如くならしめ給へ。

第六日　天主の聖慮に適ひたる聖ヨゼフ

世界開闢から世界の終末に至るまで、世に存在する人々の數も夥多しいことであらうが、天主を司配し、天主に命令を下す權利のあつた者は、聖マリアを除いて、聖ヨゼフの外にはないのである。恐くは天使の中にも斯る大權を授かつたものはないであらう。天の聖父が聖ヨゼフを選んで、聖子の養父と定め、聖子を司配する權利を授け給ふと共に御自分の聖子に對する父の情父の愛を之に寫されたから、聖ヨゼフには耶蘇キリストに對して眞實父の精情、父の愛があつた、隨て些も憚ることなく父の權利を以て耶蘇キリストを司配し、之に自分の欲む所を命令せられた。而して其行はる處置、命令せらるゝ事柄が遂一天の聖父の御旨に適ふてあつた。聖ヨゼフの思、言、行、其他全身が天主の聖慮の儘になつたことは、之を形容て曰へば粘土が陶器師の掌の中にあつて其想の儘に種々の器具となるやうなものであつた。

我等も天主の愛子、耶蘇の兄弟の位を得て、天國の相續者であ
りたいと思ふなら、聖ヨゼフに倣ひ我等の思、言、一切の行爲
が天の聖父の思召の儘に活動いて、其聖慮に適ひ、其聖心を悦
ばせるものとならねばならん。

實話

某邑に一人のプロテスタン信者があつた。其家族の者等は皆
公教信者であるにも拘らず、彼ばかりは、頑固一偏で、神父
や家族の者等が如何程立歸を勸めても、更に聽き容れなかつ
た。遂に彼は重い病氣に罹つて、醫師も倒底全快の見込がな
いと診斷をした。神父は之を聞き忽々驅け行いて、又々懇

に立歸を勸められた、然し彼は些少も改心の意を表さず、却つ
て斷然と之を謝絶つた、神父も詮方なく、彼に、我は汝の爲
特別にミサ聖祭を行ふて祈をするから、汝も天主が心を照し
てくださるやう祈をせよと慈愛の籠れる言葉を遺して歸られ
た。聽て神父は聖ヨゼフの祭壇に蠟燭を点し、彼の爲立歸の
惠を只管祈り、ミサ聖祭を行ひ、後再び行つて彼を見舞はれ
たが、不思議にも其心は全く前とは變はり、歡んで神父を
迎へ其勸に從ひ眞心より痛悔し、全く異端を棄てゝ、一切の
秘蹟を授り熟心なる一人の公教信者となつて此世を去つた。

祈願

主願はくは、我等をして、聖ヨゼフの聖徳に倣ひ、我等の思、言、行をして全く主の聖慮に適はしめ給へ。

第七日　最も貞操なる聖ヨゼフ

「福なるかな心の潔き人、彼は神を見奉るべければなり」

とは是れ萬古不易なる吾主耶蘇キリストの金言である。

聖ヨゼフは神の母なる聖マリアの夫たるべき者であるから、一切萬事配偶者なる聖マリアによく酷似ものでなければならん。

似たもの夫婦の里諺もある、然に聖マリアの清浄潔白なことは天使にも優れてあるから、其配偶者なる聖ヨゼフも清浄、潔白

なるものでなければならん。聖マリアはエルザレムの神殿に留り、常に天使の清浄潔白を眺め、其清浄、潔白、にも勝ることを努められた。聖ヨゼフは父の家に在て、清浄、潔白を守り、世間に之を知る者がなかつても、天主の御前に其徳は麗しく輝いてあつた。實に聖マリアと聖ヨゼフとはイスラエル國に於ける二本の白百合のやうで、一は神殿に一は野に美しく其花が咲いたのである。是れ如何なる身分に在る者、例之世を捨て修道院に在る者にも、世俗に在つて家庭を營む者にも貞操の貴ふべきことを人々に訓へらるゝ爲の天主の攝理であつた。又聖ヨゼフは國の法律に從つて聖マリアと婚姻を結ばれても、共に童貞を

守り、其節操は譬へば祭壇の左右にある蠟燭のやうに、吾主キリストの左右に煌々と輝いてゐつた。聖ヨゼフは貞徳を守る爲の特別なる聖寵を天主より受けて居られても、尚ほ常に五官を愼み、懶惰や光陰の空費、悪き朋友など凡て貞徳を損ふ便となることを務めて避けられた。

實話

リバドー神父の物語に、ある所に至極熱心な一人の青年があつた。如何なる理由か、如何程愼んで注意しても、屢次不淨の念や不潔な想像が心に浮んで、日夜之が爲に煩悶み、遂に病氣になつた。如何にかして此苦を免れたいものと、聖ヨ

ゼフに九日修行を行ふて援助を祈つた。九日修行の終了や、不思議にも今まで曾てなかつた心の平隱を感じ、其後は再び不淨の念や不潔な想像に惱まさるゝことがなかつた。此恩惠を感謝する爲一生涯毎日必ず一度聖ヨゼフの連禱を誦へた。

祈願

貞操を嘉し給ふ耶穌、我目我耳我口我心其他我全身を爾に捧げ奉る。最も貞操なる聖ヨゼフの御傳達に因て我靈魂は聖く、我肉身は淸らかなる德を與へ給はんことを冀ふ。

第八日

最も愼み深き聖ヨゼフ

聖パウロがコリント人に贈られた書簡の中に「汝等知らずや競走の場を走る人は悉く走るも雖も、賞を受くるは一人のみ汝等受け得べき樣に走れ。總て勝負を爭ふ人は萬事を節へ愼む而も彼等は朽ちざる冠を得んとす」と曰はれてある。

聖ヨゼフが一切萬事を悉く天主の光榮を目的として行はれたことは、譬へば、競走の場を走る人が目的の塲所を目掛けて、一心不亂にせッせと走るやうに、其他は何事も一切顧みられなかつた。即ち天主を萬事の中に見、萬事を天主の中に見て苟且にも利益や名聞の爲に事を爲られたことがなかつた。故に其行はるゝ行爲が普通の事であつても何時も天主が目的であつたから、悉超性上の功德があつた。隨つて其言語、動作が些少も輕兆浮薄に渉ることがなく、萬事に謹愼が顯はれてあつた。耶穌の聖言に「手を犂に着けて尙後を顧みる人は神の國に適せざる者なり」とある。總て心を天と地に割つ者は天に到達くことは出來ぬ。眞實に救靈を得たい者は常に天主を最終の目的とせねばならん。

實話

スラントと云ふ神父がルアンの町から一人の青年と乘合馬車に同車して途次種々信仰上の物語を爲られた。其青年が風采から見ても、言葉遣ひから考へても、特別學問を修めた者と

も想はれなかつたが、其信仰上の事や聖ヨゼフの御徳などの事を物語る所を聞くと、實に大學者も及ばぬやうな智識が備はつてゐつたのに驚いて、彼の身の上に就いて詳細く糺して見らるゝと、彼は幼少の時から、ある家の拳公人であつて、碌々文字の讀み書きも出來ぬ位の者であつたが、斯る深い智識を得たのは全く彼が平素に天主の事を念頭に懸け、何事も其御光榮の爲に行ふ熱心と聖ヨゼフに援助を祈り、其聖徳に倣ふた結果であると知られた。

祈願

至善なる天主、我等の思想、言語、行爲を悉く主に献げ奉る凡て此等の者をして主を愛するの精神を以て活動かしめ一に主の光榮とならしめ給へ。此御恵を聖ヨゼフの御傳達に因て願ひ奉る。

第九日

最も謙遜なる聖ヨゼフ

マテオ聖福音書二十二章、十一、二節に「汝等の中に最も大なる者は汝等の僕となるへし。自驕る人は下げられ、自遜る人は上げらるべし」と曰はれてある。福音書の此聖言がよく聖ヨゼフに該當るのである。博士ボスエは「聖ヨゼフが諸人の中に最も名譽高い者となられたのは、曩に神の光榮の爲に自分の

名譽を悉く棄てられたからである。聖ヨゼフが聖公會に於て最も高い位に陞げられて萬民から崇められるのは、曩に吾主耶蘇の爲に德も位も全く隱匿して人々の中にも最も卑賤しい者と想はれられたからである」と曰ふた。聖ゼヨフは天の聖父より救世主なる聖子を依托けられた者であるから、聖ヨゼフはど萬民の救贖の奥義に就てよく知つた者はなかつた。併し此等の事に關しては專ら無言を守つて、苟且にも自分の名譽を博めん爲に吹聽せられたことがなかつた。聖ヨゼフは萬物の造主、萬民の主宰者なる耶蘇キリストの養父たる高い位と名譽なる務を受けて居られても、世に之を知る者はなく、自分も敢て之を他人に

被露せず、自分の德や位も秘し、鑿や鋸を手に執る卑しい業務に身を委ね、唯耶蘇や聖マリアと共に在ることを最も樂として其他の事は些少も願はれんであつた。

實話

一人の青年があつた。數々の大罪に陷ちて、慙愧と良心の苛責とに堪ず日夜煩悶んで居たが、何しても告解する勇氣がなく、告解しようと聖堂の門まで行つても空しく歸つたことが屢次であつた。遂に天主の助力に藉らなければ、決心を實行することの出來ぬことを覺り、其日から毎日特別な祈禱をし又聖ヨゼフの援助を願ふ爲に其光榮となる祈を誦へた。斯や

うに續いてすることが三ケ月であつたが漸次に熱心となつて自分ながらも心が全く變化つたやうな感じがして、遂に思立つて神父の許に行つたが、今度は曩とは大に異り容易く告解することが出來て、罪の赦を受けて家に歸る時の其喜悦は何とも譬へやうがなかつた。彼は常に自分が立歸の恵を得たのは全く聖ヨゼフの御援助であつたと人々に物語し、其後も絶えず聖ヨゼフの援助を祈り、生涯方正しい行をして此世を去つた。

祈願

傲慢なる者に逆ひ、謙遜なる者に恩寵を賜ふ主耶蘇、聖ヨゼフの御傳達に因て謙遜の徳を與へられんことを冀ひ奉る。

第十日　最も從順なる聖ヨゼフ

一國の平和も、一家の秩序も從順に依つて保たれるのである、又從順は天主の聖旨に最も適ふ徳であるから、聖書に「從順は犠牲に優る」「義者の心は從順を思考ふ」と書れてある。聖ヨゼフが如何ほど從順の徳に富んで居られたかと云ふことは聖福音書に載せられてある一二の記事に由つて證明することが出來る。聖ヨゼフが惡王ヘロデの迫害を避けられたときの情況を聖福音史が述べて左の如く云ふてある「主の使ヨゼフの夢に

現れて云ひけるは、起きて孩兒と其母とを携へてエヂプトに逃れ、我汝に告ぐるまで彼處に居れ、其はヘロデ孩兒を殺さんとて之を求めんとすればなりと。ヨゼフ起きて孩兒と其母とを携へて夜ユダプトに避け、ヘロデの死するまで其處に居れり」と。聖福音書の簡單なる此一條に聖ヨゼフの從順が明々に顯はれてある。抑も逃げると云ふことは意氣地のない無能者と行爲で、全能なる神が何うして斯やうなことをせらるゝのであらうかと、一應誰しも疑ふ筈であるが、聖ヨゼフには毫も左やうな態度が顯れず、天使の命令のまゝ翌日とは待たず、直に起きて夜中遠國なるエヂプトへ脱走られた。又エヂプトに留まる期限

に就ても、我が汝に告る迄で、とのことで果して何時までのことであるやら之も告げられなかつたが、聖ヨゼフは敢て之を問ひ糺されたことがない。聖ヨゼフの從順は天主より來る光明に目を注き、天主の御力に依靠る堅固な信仰の上に築かれたる德であつた。凡そ完全なる從順の德は神の命は是れ善、長者の命は是れ神の命なりとして、敢て其命ぜらるゝ事の理由を糺さず して之に從ふことである。

實話

カルメル會にマルガリタと云へる一人の修道女があつて、幼少の時から聖ヨゼフに對して敬虔深い者であつた。彼は特別

深い學問を修たと云ふのではなかつたが、何か聖ヨゼフの事に就て物語をする時分には恰當博學者のやうにあつた。修道院に在つて働を爲る時には、吾主耶蘇が聖ヨゼフに從はれたことを想ひ、常に從順を重んじ、規則を嚴重に守り、又同輩の修道女等を見ること聖ヨゼフが聖マリアを見られたやうに專ら尊敬と親愛とを以てして他の修道女等の立派な模範となつた。

祈願

全能なる天主、謹みて尊前に伏し、我身を全く主に献げ奉る、聖ヨゼフの御傳達に因て我等に謙遜と從順の德を與へ賜はんことを願ひ奉る。

第十一日　最も忠實なる聖ヨゼフ

聖ヨゼフが天主なる耶蘇キリストの養父となり之を保護する務を受けられたことは、是れ大なる神の恩惠である、又彼の爲に大なる光榮である。併し「名譽には重荷」と云ふ西諺の如く、聖ヨゼフは天主より授つた此務を忠實に盡す爲に夥多の艱難辛苦を凌がれた。聖ヨゼフは素より富豪ではなかつたが、住ふ家もない程の貧乏でもなかつた、然るに耶蘇の御誕生の時には寢むべき家もなくて、厩の中に宿らねばならんのであつた。斯る不

自由も耶蘇を保護する務を忠實に盡す爲に甘んじて凌がれた。
又聖ヨゼフは家に貯畜とては無く、たゞ腕を資本に家業を營み
一家三人の生計を立てゝ居られたに、俄に遠いエヂプト國へ逃
げねばならんことになつた。彼處に家、道具のないは云ふまで
もなく、親戚朋友もなく、聖ヨゼフの苦心
慘憺は實に譬へやうもなかつた。併し聖ヨゼフは斯る困難にも
耶蘇を養育する務を完ふする爲に喜んで堪へられた。凡そ耶蘇
の側にゐて忠實に之に奉仕へたいと望むものは、必ず艱難辛
苦を凌ぐ決心がなければならん。「人若しわが後に來らんと欲せ
ば、己を棄て、日々己が十字架を取りて我に從ふべし」とは是

れ吾主キリストの御命令である。

實話

佛蘭西のエンヌ縣にブランシュと云ふ信仰の深い、德に秀で
た一人の少女があつた。彼は一千八百四十二年の三月十九日
聖ヨゼフの祝日に誕生した緣由から特別聖ヨゼフに信心して
居たが、年十五の時大病に罹り、病氣は漸次に重り、遂に全
快の希望もないものとなつた。少女は之を聞いても毫も愁ひ
悲むことなく、身を全く天主の聖慮に任せよく病苦に耐へ、
聖ヨゼフの擁護を祈りながら臨終の覺悟をして側に居る人々
に自分は聖ヨゼフの祝日に此世を去り、天國に於て聖ヨゼフ

を祝ふと云ふて居たが果して十九日の朝になつて非常ぬ喜悦の色を顯はし、噫々私の待ち兼ねた日は漸く來たと云ひ、又其日の十時頃に聲を揚げて、如何と難有いことではないか、聖ヨゼフは御自分の尊貴をも顧み給はず此卑賤しき婢を迎へん爲に此處に來り給ふとは、と、如此悦しさうに叫び、イエズス、マリア、ヨゼフと唱へながら眠るやう息は絶えた。

祈願

多福なるヨゼフよ、我等汝に依靠り奉る。願はくは我等を助け如何なる艱難の中にも我等の務を忠實に盡すことを得せしめ給へ。

第十二日　天主の秘密を守りし聖ヨゼフ

人々が天主より授かる職務は皆同一ではない。聖ヨゼフも使徒等も同じく耶穌キリストの爲に働くやうに天主より招かれた者である。併し其務は各々異つてゐた。使徒等は耶穌キリストを萬民に知らせるのが務で、聖ヨゼフは耶穌を世に隱すのが務であつた。天主の聖子は世に降つて人となり三十年の間御自分の能力と威光を秘す爲に私生活を營んで世に隱れて居られた。其間は聖ヨゼフに從ふて專ら木工の業に精を出して居られたから、人々は皆彼を一人の木工の子と想ふて、誰も之が萬物の造主なる神の子なぞと想ふ者はなかつた。聖ヨゼフも固く神の秘

密を守つて苟且にも自慢がましく之を人に語られたことはなかつた。ろれで使徒等は耶蘇キリストの徳を萬國に輝やかす光であつたが、聖ヨゼフは耶蘇キリストの威光を隠す秘密函であつた。斯やうに其務は各々異つてゐても、皆天主より授けられた本分を忠實に盡し、天主の聖意に適ひ勲功を建てられた。因て是見之從令天主より授けられた務が人目に立たぬ拙らぬ職業であつても、天主の聖慮に身を依托、自分の境遇に安じて其務に精を出すなら、後日天國に於て目立つた、立派な事を司ることが出來るのである。

實話

福者ベルボアルはラザリスト會の神父で、支那國に布教して千八百四十年九月十一日に其國に於て歿した。彼は常に聖女テレジアに傚ふて深く聖ヨゼフに信心し、聖ヨゼフの崇敬の道を擴張ひる爲に熱心に力を盡した。其性質は至つて溫順、寡言で高聲で談話も爲ぬやうな人であつたに拘らず、聖ヨゼフの事に就いて何か物語を始めると直に非常な元氣となり、又些少でも聖ヨゼフの光榮を損けるやうなことを、曰ふ者があれば、毫も容赦なく其誤謬を正した、又彼は聖ヨゼフの隱德に傚ひ、世に隱れて善を行ひ德を修めることを努め、人々にも之を奬勵め、聖ヨゼフを崇敬ふ最も優れた道は是

であると教へて居た。

祈願

主願はくは我等をして聖ヨゼフに倣ひ、世の聲譽を望まず、人の輕蔑と批評を畏れず、主の聖慮に由つて定められたる職分に安んじ、我等の務を忠實に盡すことを得せしめ給へ。

第十三日　天主に試を受けたる聖ヨゼフ

天主は種々の難難を以て、聖ヨゼフの節義を試みられた。抑も耶穌（イエズス）が親ら責人となつて、人の節義を試さるゝことは、寔に稀なことである。然に聖ヨゼフに對しては之を行はれた。聖ヨゼ

フは注意の上にも注意を加へ耶穌を保護せられたにも拘はらず其御年十二の時、エルザレムに於て之を見失はれた。聖ヨゼフは大に之を憂ひ、此處彼處と捜索し、漸く三日目に彼が神殿に在つて、學者等と問答して居られのを見付けられた。聖ヨゼフが耶穌を見失はれたことを決して自分の過失の爲ではなかつた。併し天の聖父より依托けられてある此耶穌を見失ふたことを何よりも遺憾と思ひ、夜の目も寢ず、憂慮して之を尋ねられた。人々の中には、屢次自分の過失を以て耶穌を失ふても、更に無頓着で全く平氣で居る者が尠くない。是れ耶穌は自分の何より貴重な生命にも代へられぬ寶であると思はぬからである。御自

分の生活が致命と十字架であつた。又「狐は穴あり空の鳥は巣あり、然れど人の子は枕する處なし」と云はれた耶蘇は、聖ヨゼフにも、御自分の苦の一部を分配けて、悲の父、殉教者の先駆とならす爲に彼を一生涯數々の艱難辛苦に逢はせられた。併し聖ヨゼフの高徳と節義は神の試の中に愈々顯はれた。使徒聖ヤコボは書翰の中に「試を忍ぶ人は福なり、其は鍛練を經て後神の己を愛し奉る人々に約し給ひし生命の冠を得べければなり」と曰ふた。

實話

佛蘭西のフンデ縣に熱心な一家族があつた。其家の一子が軍人になつて、パテと云ふ所の戰爭に出た。彼の母は日々聖堂に行き、聖ヨゼフの祭壇の前に跪き、其保護に因つて、我子の無事に凱旋することを熱心に祈つて居たが、其戰は遂に身方の敗軍となつて、夥多の戰死者があり、自分の一子も其中にあらうこ云ふ報知を受けて、我子は已に此世になきものと思ひ日夜悲嘆に沈んで居た。然るに數日ならずして、思ひ掛なくも、已に死んで世になき者と思ふた其子は、最も强壯で恙なく家に歸つて來た。其日は恰當三月十九日聖ヨゼフの祝日であつた。而して其兵士は自分が無事に家に歸ることを得たのは全く聖ヨゼフの援助であつたと話した。母は之を聞

き、大に悦び、其洪恩を感謝する為に、聖堂に白蠟石の碑を建て、其上に、世々聖ヨゼフに讃美と光榮あらんことを、聖ヨゼフは千八百七十年の戰役に吾愛子を守護し、千八百七十一年三月十九日を以て恙なく家に歸ることを得せしめ給ひたりと銘記した。

祈願

嗚呼吾主耶蘇、我等に臨む諸の艱難辛苦は、是れ我等の節義を試み給ふ天主の聖慮に因るものと信じ奉る、願はくは我等をして聖ヨゼフに倣ひ、甘じて之に耐へ忍ぶことを得せしめ給へ。

第十四日　堪忍の鑑なる聖ヨゼフ

吾主耶蘇の金言に「忍耐を以て其靈魂を保て」とあり、又聖パウロ使徒がヘブレオ人に贈られた書翰の中には「神の聖旨を行ひて約束のものを得ん爲に汝等に必要なるは忍耐なり」と曰はれてある。

聖ヨゼフは此世に於ては吾主耶蘇キリストの深い寵愛を蒙り、今天に於ては無上の幸福を享け、又全世界公教會の保護者たる最も高い位に陞せられてあるが、嘗て此世に在られしときは、絶えず艱難辛苦に逢はれた。此事は聖福音書に記されてある、聖マリアが姙娠になられしとき其原因を知らずして苦心煩悶せ

られし時のこと、吾主耶蘇キリストの御誕生當時の事、エジプトへ逃げられし時のことなどを些少でも考へたなら直に明瞭に悟るであらう。併し聖ヨゼフは此等數々の艱難辛苦を耶蘇キリストの爲に善く耐へ忍んで毫も不平不滿足に思はれたことがなかつた。

人若し此世に於て天主の聖寵に充ち、後の世天國に於て眞の幸福を享けたいと希望むなら、必ず堪忍して此世の艱難辛苦をよく凌がねばならん。十字架を以て世を贖はれた耶蘇キリストは十字架なしには救を授けられん。苦を受けて己が光榮に入られた耶蘇キリストは御自分の愛する者をも、苦を受けて光榮に入

らせらるゝのである。

實話

一人の信心な少年があつて、身を全く天主に獻げ、神父になつて生涯神の光榮の爲に働かうと決心して、日々ある神父の許に通學ふて怠慢なく勉強したが、不幸にも其性質甚だ記憶が鈍くて、如何程勉強しても、何うしてもラテン語を覺えることが出來ず、神父も是では到底徒目だと斷念した。少年は之を聞いて非常に悲しみ、今暫時辛抱して學問を續けさせて貰ひたいものと涙ながらに願ふた。神父は彼の心を察して之を愍然に思ひ、其願を容れ且彼に特別聖ヨゼフの援助を祈

ることを勸めた。少年は神父の勸に從ひ、其日より熱心に聖ヨゼフの援助を祈つて學問を續け、神父も亦彼の爲に聖ヨゼフに祈られたが、漸次に少年の智慧は明かに、記憶は強くなり學問に上達し、後には大學校に入り、學德並進んで神父となり、神學教授より累進んで神學校々長となり、遂には司教代理にまでも陞つた。

祈願

十字架の苦を以て世を贖ひ給ひし主耶穌、聖ヨゼフの御傳達に因て患難を甘じ受くるの恩惠を與へられんことを冀ひ奉る。

第十五日　天主の思召に身を任したる聖ヨゼフ

耶穌キリストは貧しい厩のなかに誕生せられ、其父と云へば身分卑い一人の職工であつた。斯る者がユデア國の王となるべきものであると、誰が夢思ふであらうか。然にヘロデ王は耶穌キリストの誕生せられたことを聞き、自分の王位を失はんかと杞憂れ、之を殺さうと企て、ベトレヘムと其四方に在る二歳以下の男兒を悉く殺すやうな慘酷しい迫害を行ふた。其原因と云へば、天に現はれた不思議な星に導かれ、三人の博士が、エルザレムに來て、生れたるユデヤ人の王は何處に在すぞ、とヘロデ王に尋ねたからである。因是聖ヨゼフは忽ち一家三人の生計を

立てる職業を失ひ、年若き聖マリアと生れて間もない、耶蘇を連れて、住馴れぬ他國へ行かねばならんことになつた。然し聖ヨゼフは萬事を天主の思召に任せ、天使を以て告られたる、天主の命令に早速從ひ、取るものも取り敢へず、夜中に旅立してエヂプトに逃げられた。是れ聖ヨゼフは耶蘇キリストに從ふて貧賤なることを望み、耶蘇キリストと共在つて苦を凌ぐことを可しとせられたからである。

實話

近年のことである、訪問會と云ふ修院の寄宿舍に一人の少女があつた。不圖したことから重い病氣に罹り、起臥も自由ならず、唯寐臺の上に在つて、日となく、夜となく全身殊に脚部に劇しい疼痛を感じ、種々の藥石を用ひ、百方治療を施しても、更らに其効驗がなかつた。遂に思ひ立つて聖ヨゼフの光榮の爲、九日修行を行ふて、若し天主の思召で、平癒の惠が授けられねば、責ては天主の攝理に安じて、苦痛を忍耐く力を與へられんことを願ひ、日々熱心に祈禱を續けて居たが、些少も疼痛は減らなかつた。然に九日目に聖體を拜領し、感謝の祈禱を終るや、不思議にも今まで劇烈しかつた疼痛は夢のやうに去つて全く無病な者となつた。少女は歎喜に堪へずして、涙に咽びながら、天主と聖ヨゼフとの洪恩を感謝し、

誓願を立て、修道女となり、外國派遣部に入つて、東印度に遣られ、夥多の異教人を公教に立歸へらせ、また人々に聖ヨゼフを崇敬する道を大いに擴張めた。

祈願

嗚呼主耶蘇キリスト、願はくは我等に、聖ヨゼフに倣ひ、從令活死、饑渇など如何なる艱難に逢ふも、萬事を主の聖慮に任せ敢へて主を離れざるの恵を下し給へ。

第十六日　滿賛の愛好者なる聖ヨゼフ

吾主耶蘇キリストの聖言に「福なるかな心の貧しき人、天國は

彼等の有なればなり」とあり。聖パウロも亦ヒリッポ人に贈る書簡の中に「我キリストの爲に一切の損失を蒙りしかど、之を視ること糞土の如し。是れキリストを贏け奉らんが爲なり」と云ふた。

天主が福音の道を立てゝ世の人心を導かるゝ方法は、世間の想像とは全く異つてある。即ち世間の富貴、歡業一切の物を天主の爲に捨つる者に御自分を與へて之を幸福ならしむることである。それで心の貧い者となつて天主の爲に此世の一切の物を捨てねば、眞實なる幸福者となることが出來ぬ。

恐らくは世に聖ヨゼフほど清貧を愛好んで、神の爲に自分の物

を捨てられた人はあるまい。自分の物を捨てたと曰ふよりは寧ろ自分を捨てたと曰ふ方が可からう。聖ヨゼフは實に貧い職人で、家督と云へば其腕である。勞働の他には金を儲ける資本はない。住み馴れた家すら棄てねばならんこともあつた。聖ヨゼフは斯やうに貧乏であつても耶蘇キリストが聖ヨゼフの財産であつた。又聖

ヨゼフは深く清貧を嘉み、一切世情の慾を全く離れて其心は唯た神の聖寵を以て充たれてあつたから、百萬の財産家よりも幸福な者であつた。實に從令全世界の物を悉く損失ふても神と共に在り、神の聖寵に充ち居るなら、これより幸福なことはなからう。

實話

一千八百二十三年に佛蘭西のブラモンと云ふ町の神學分校に聖ヨゼフの小聖堂が建立てられて生徒等は皆奉獻式の準備として聖ヨゼフに對する九日の修行を行ふた。其最初の日に偶々校長が近邊に住む一人の植木屋に邂逅はれたが何か憂慮しい顏色であつたから其仔細を尋ねられた。すると植木屋は自身の二人の小供が大病に罹り、醫師も藥石も更に効驗がなく大いに困難して居る趣を物語した。校長は乙を聞いて大いに同情に思ひ、彼に聖ヨゼフに對する信心の利益の大なるこ

とを說き、聖ヨゼフの援助を祈ること懇に勸められた。植木屋は神父の勸に從ひ、家族、親戚の者等と心を協せ、九日修行を行ふて熱心に聖ヨゼフの援助を祈つた。修行初の日より已に効驗が顯はれ修行終りの日には二人共全く無病な者になつた。奇蹟は身體上のみならず、靈魂の上にも行はれて、其二人は其時までは偏屈强情な者であつたに、其後は至つて柔和、温順な者となつた。

祈願

我等を救はんが爲に世の富と寶を捨て給ひし主耶蘇よ、滿貧の愛好者なる聖ヨゼフの御傳達に因りて世の財寶を輕ずるの德を與へられんことを冀ひ奉る。

第十七日　職人の模範なる聖ヨゼフ

聖ヨゼフは帝王ダビドの譽高き後裔であり、天主なる耶蘇キリストの養父であつても、身分卑い職工となり日々身を勞働に委ね、粉骨碎身、些少も怠らず自分の家業によく精を出された。耶蘇キリストも亦天主ながらも聖ヨゼフと共に職場に在つて其指揮に從ひ鉋を掛け、斫を執るなどの荒仕事をして人々から木匠の子と呼ばれて居られた。卑賤い木匠の職業もナザレトの聖家の職場に於て營まれた爲に、其價値が騰つて尊貴高尚な職

業となつた。從令卑賤職業であつても、聖い目的を以て之に精を出すなら其職業は神聖くなるのである。聖ヨゼフは耶穌と共に終日額に汗して孜々と働いた後、從令粗食とは云へ心籠めた聖母の手で調理られた食膳に一家三人睦じく圍座せらるゝ樂しさは、實に足ること知らぬ贅澤者が山海の珍膳に向ふよりは遙に優れてあつた。

自ら職工となつて勞働の辛苦を嘗められた聖ヨゼフは凡ての勞働者に對して同情があるから、職人が自分の家業を全ふ爲の援助を祈るなら、必ず之を聽容れてくださる、而して其職業が天主の尊前に價値あり、功德ある働となるのである。

實話

某の年佛蘭西のある縣に劇烈しい疫病が流行して、之に罹つて斃死する者が夥しくあつた。所の神父は村々を巡廻つて病人を見舞ふて居られたが、ある所に一軒の見苦しい荒屋があつて其中に誰一人介抱する者もなく身に襤褸を纏ひ藁を褥として臥て居る憫な老人があつた。神父は內に入つて病人を見舞ひ其物語る所を聞かれた。彼は自分の斯る境遇を嘆くかと想の外、最も滿足な態度で話して曰ふには、愚老は幼少の時から聖ヨゼフを我守護と賴み、其聖き御行ひを慕ひ富貴を見ても羨しく思はず、榮達を見ても願はしく思はず、御覽にな

る彼の煤け壁に掛つてゐる二挺の鋸と一挺の斧は私の爲には唯一の財産で彼二の道具を以て日々働いて天主より與へらる食物に飽き、夜に入れば耶蘇、マリア、ヨゼフに我一身を委ねて些少の憂慮もなく全く安心して眠に就いて居たが、最早今日は天主が私の上に救の日照し、天の門を開いてくださるのである、と斯く話し終つて安隠と永き眠に就いた。

祈願

吾主耶蘇キリスト――我等をして聖ヨゼフに倣ひ天主より授けられたる本分を守り、我職務に勤勉ならしめ給はん事を願ひ奉る。

第十八日　家庭生活の榮與なる聖ヨゼフ

人類は天主より定められたる性質上獨存で生活すべき者でないから、家庭の必要がある。而して家庭の圓滿なる幸福は夫婦、親子、兄弟の如き家庭を作る素となる者の相互に其義務を盡し一致和合する所より得らるもので、決して位階や財産に因つて得らるゝものではない。熟ナザレトの聖家族を見るに、位が貴いと云ふでもなければ、財産に富んで居られたと云ふでもなかつたが常に和氣靄々として温暖い春のやうな樂しい家庭であつた。是れ各々其本分を守り、聖ヨゼフは一家の主人として妻子を愛し、日々家業に精を出し、耶蘇は父母に孝行を盡し、聖

ヨゼフの指揮に從ふて勞働を勵み、聖マリアは夫聖ヨゼフに對して尊敬と親愛とを盡し、耶穌を愛育し日々の食物を調へ衣服を製ゆるなど家事萬端に心を配つて些少も怠られず、何も皆其務を完ふせられたからである。寔にナザレトの聖家族が互に一家よく和合して琴瑟亂れず神々しい家庭を營まれたことは之を地上に於ける三位一體とでも云ふべきであらうか。天主の聖子の托身に由つて人間の性が其地位を高めたやうに、ナザレトの聖家族に由つて世の家庭生活なるものが神聖なものになつた。

實話

パリの近村に至て熱心な信者の一家族があつた。親子夫婦互に睦く熱心に天主に仕へ、家業を勵み最も樂しい家庭を作つて居たが、其家の主人がまだ年老たと云ふでもなかつたに不圖した所から大病に罹り、病氣は漸次に重り遂に臨終に及んだ。併し彼は平素の信心の冥助に依つて、年若き妻や可愛四人の兒を後に遺さねばならん憂愁があつても、萬事を天主の聖慮に任せ些も悲む氣色なく偏に善き最終を遂げる覺悟をした。最終の聖體拜領の日が到來て妻子に命令け室内を立派に飾らせ、正面の中央には象牙製の十字架と其兩側には聖母マリアと聖ヨゼフとの聖像があつて、其周圍には美麗しい生花燭臺などが順序よく排列られてあつた。而して小供等に曰

ふには、今日は私の爲には聖體の祝日であるから、御前等は庭園の花を摘み採り、御聖體の行列の日にしたやうに神父樣を迎ひに出て御聖體の前に其花を撒けよ、と。小供等は父の命令の通り行ふて、聖體は馥郁しく匂ふ玫瑰花や白妙の百合花の撒れる中に病人の床に臨まれ病人は最愛の妻子の祈禱に佑けられ歡喜に充ちて恭しく聖體を拜領し安隱に此世を去つた。

祈願

聖マリアと聖ヨゼフとに從ひ聖德を以て家庭生活を神聖ならしめ給ひし主耶穌、願くは我等をして聖家族を模範として行を修め、其御佑に依つて終なき幸福を享るに堪ゆべきものとならしめ給へ。

第十九日　家庭の柱石なる聖ヨゼフ

家屋は柱石に依つて支へられ、車輪は心棒に依つて運轉するやうに邦國は主權者に依つて治められ、家庭は主人に依つて齊へられるのである。天主の聖子が人となつて世に生れ家庭の中に成長せらるゝには、其家庭の主人となるべき者がなければならん此家庭の主人と選ばれた者は即ち聖ヨゼフである。聖ヨゼフは神の家庭とも謂ふべきナザレトの聖家庭を統治むる大權を天主

より授けられ、其責任を全ふする爲に聖家族の保護と養育とに滿腔の力を注がれた。又聖マリアは夫聖ヨゼフに對して敬愛と服從とを守り妻たる義務を盡し、吾主耶穌は聖ヨゼフを家の主人として尊び、父として愛し、師として敬ひ、子たり弟子たる道を完ふせられ一家族相共に心を一にし力を協せ、麗しい家庭を作られた。世の模範となるべき此家庭の柱石なる者は聖ヨゼフであつた。

凡そ一家の主人たる者は聖ヨゼフのやうに、自分の妻子眷族は天主より依托られたるもので、之を治むる如何に就て天主の糺を受けねばならん事を覺ね、自ら一家の柱石となり家族の者等

を言行を以て善徳に導くの義務がある。

實話

昔佛蘭西のボルドーと云ふ市に一人の熱心な婦人があつた。不幸にも其夫は志の良らぬ者で若い時から放蕩に身を持ち潰し、始終外を家にして一向家族の者を顧みず、偶々家に歸へれば家内の者に強顏當り、苦情を列べて妻に迷惑を掛ける が常であつた。然に妻は夫に引替へ至て貞操な者で、斯る無情な待遇を受けても露夫を怨む心なく、纖弱女の腕で夜に日に次で手仕事を勵み漸く細い煙を立てながら朝夕怠なく、夫の立歸を天主と夫の守護なる聖ヨゼフとに祈つて居た。幸に

夫婦の間に可愛一人の男兒があつた。妻は之を唯一の樂として末頼母敷く幼い時より之を御教の旨に隨つて教育て、朝夕の祈禱なども必ず自分と共に誦へさせ、併て父の立歸を祈らせた。某夜の事であつた、偶々夫は漂然と我家に歸つて來て門に近寄ると、内には何か小聲で話す聲が聞える、夫は不審に思ひ戸の隙より内を覗て見ると、妻は殊勝にも夜の祈禱を終り、愛兒に向つて曰ふには、噫父さんは何時内に御歸りなさるだらうか、坊や、父さんが可愛だらう、去來父さんの爲の御祈禱と、母の言葉に幼兒は跪いて十字架の記號を爲し楓のやうな掌を胸に合せ廻ちぬ口にも、天主樣、聖ヨゼフ樣

父さんを助け給へと祈つた。之を見た父はやはり人である、血もあり泪もあつた。忽ち心の目が覺めて、今まで天主に背き妻子を苦しめたことを深く悔み、戸を開け放つて内に入り涙ながらに妻子を抱いて今日までの放蕩を詫び、其時より全く行狀を改め別人のやうになり、勤の務には熱心に、家業には善く精を出し一家三人樂しい家庭を營むやうになつたと云ふ。

祈願

福者ヨゼフを以て聖家族の長となし給ひし天主、願くは世の家庭の長なる者をして聖ヨゼフに倣ひ其務を完ふせしめ給へ。

第二十日　不幸者の慰安なる聖ヨゼフ

凡て他人の不幸や艱難辛苦を見ることは自分が不幸や艱難辛苦に逢ふたとき、自ら慰めるに大いに効力がある。又凡て世の辛酸を嘗めた者は他人の不幸や困難に對して大いに同情がある。聖ヨゼフは救主の養父とも選ばるゝ程の大聖人であつても、此世界に於ては幸福な者ではなかつた。例之産期滿ちたる聖マリアを伴ふて遙々ベトレヘムに來て宿舍を求められても、貧い彼等を請ける者はなく、門前拂に逢ひ、或はエロデの迫害に遇ふてエヂプトに逃げられなど其他生涯種々の不幸に逢はれた。罪人なる我等が之を見るなら、從令此世の不幸に逢ふても當然

と云ふ思想が起つて自ら慰めることが出來る、又聖ヨゼフは此世に在つて夥多の艱難辛苦に逢はれた者であるから、世の不幸な者に對して同情を寄せ、涙の谷から自分に向て啼き叫ぶ者には必ず救助の網を下げてくださる。聖ヨゼフに倣ひ此世の不幸をキリストの爲に甘んじて凌ぐなら、必ず天に於て慰を受けらるゝのである。「福なるかな泣く人、彼等は慰められるべければなり」との金言を忘れてはならん。

實話

天主公教には種々の修道會があるが、其中に特に貧しき姉妹の組と稱へらるゝ會がある。其會員たる修道女の務は日々所

々方々から施を貰ひ集めて、世に寄邊なき憫な病人や老人を養ふことである。世の慈善家の贊助や同情の力に依つて大底毎日入用だけの物は貰ひ集めることが出來るのである。勿論天主の御佑に相違ないが。然にある所の修院に八百圓の支拂を爲ねばならんことがあつて、八百圓は扨百圓の金もなく、然も支拂の期日が迫つて來て、院長始め修道女等は大いに苦心して、九日の修行を行ふて聖ヨゼフの援助を祈つた。其修行中に近邊の旅館に一人の漫遊の貴婦人が泊つて、不圖病床に罹り、其修院の一室を借受けることを所望した。院長は自分等の家は貧民の爲に設けられたもので斯る人の爲には不適

當と思ひ、外に適當な所を借入け懇に世話をした。其時貴婦人は院長の厚意を謝して一包の金を贈て曰ふには之は些少であるが滿望入費の助にして貰ひたいと。院長は其志を難有く受けて其包を披いて見られたら恰當八百圓の金が封入てあつた。院長や修道女は是れ全く聖ヨゼフの御惠と其洪恩を深く感謝したと云ふ。

祈願

哀憐の父なる聖ヨゼフ、我等汝に向ひて號はり、此涙の谷に啼き叫びて只管仰ぎ望み奉る。哀憐の御眼もて我等を顧み、御子の御前に代願者となり給へ。

第二十一日　死に臨める人の擁護者なる聖ヨゼフ

聖ヨゼフの御死去の時の形況に就いては聖書中何も特別記載された事はないが、聖傳の傳へる所に據ると、聖ヨゼフは耶蘇キリストと聖母マリアとに抱かれつゝ最も安穏かに此世を去り、古聖所に往き聖子耶蘇キリストの御昇天の日を俟たれたのである。聖フランシスコ、サレジオは聖ヨゼフの御臨終が如何ばかり聖くあつたかと人々に知らせん爲に比喩を設けて曰ふたには「聖ヨゼフの御臨終は寔に聖ひ御臨終で、何とも喩へやうがない、併し假に天使が死すべき者なれば、必ず聖ヨゼフのやうな臨終を遂げることを希望んだであらう」と。聖ヨゼフは斯やう

に耶蘇キリストと聖母マリアとに抱かれつゝ幸福な臨終を遂げられたから、人々にも同じく幸福な臨終を遂けさせるやうに力を盡さるゝのである。

聖女テレジアは聖ヨゼフが死に臨める人の擁護者であることを說いて「平素聖ヨゼフに對して敬虔な者は臨終の時に特別な援助を受けて、聖寵の光に照らされ、心を攪亂す誘惑などが些も起らず、隨て恐懼不安の態度なく曰ひ難い歡喜の色を顯はして安穏に此世を去ることが出來る、ろれで聖ヨゼフに對して敬虔な者の爲には死は悲哀でなく反て歡樂である」と曰ふた。

時は一千八百八十五年一月二日の事であつた。氣品の最高い一人の老人が某神父の所に來て、何町何丁目の斯々の家に危篤い病人があるから、一刻も速く御越を願ひたいと賴んだ。然し神父は其老人は見識ちぬ人なり、又行く道筋は物騒で然も夜は更けてあるなり如何にしてよからうかと暫時躊躇せられたが、假令騙からるゝにしても、大切な務の事であるから早速祕蹟を授ける準備を調へ、老人に隨ふて行かれた。すると老人は途中で神父に、私は一歩先に參つて門口で御迎へ致しますから申上た家まで御出くだされと云つて些し先に行くかと思ふと姿が見へなくなつた。神父は不思議に思ひながら

老人が曰ふた家に來て見れば、其家が風紀上餘り良しからぬ家であつたから、聖體を持つて此家に入るのは如何であらうかと思はれたが、兎に角御主が罪人の爲に此世に降られたてを考へて呼鈴を引かれると先の老人が迎ひに出て、此奥の室に一人の病婦が居りますから滿望祕蹟を御授けくださいと病人の室を敎へてまた見えなくなつた。神父は內に入つて、病婦に自分が一人の老人に迎はれて此所に來た次第を陳べられると、病人は之を聞いて大に喜んだ、併し其迎ひに出た老人は誰であるか一向識らず不思議に思ふて曰ふには、妾は幾度となく此家の者に神父を迎へることを願ふても、誰一人之

を聽容て呉れず、祕蹟も授らず此儘に死すことかと悲んで居たが、妾は常に聖ヨゼフに信心して善き最後の恵を祈つたから神父を迎に行て呉られた老人は必ず聖ヨゼフであると云ひなから涙を流しつゝ告解し聖體、終油の祕蹟を授つて安穏に眠に就いた。

祈願

耶穌と聖マリアとに抱かれつゝ最も幸福なる臨終を遂げ給ひし聖ヨゼフ、常に我等の擁護者となり、特に臨終の時天主なる御子の尊前に代禱を爲し給へ。

第二十二日　煉獄の靈魂の扶助なる聖ヨゼフ

聖ヨゼフの靈魂は肉身を離れて古聖所に降り、逐放流謫の身となつて、聖子耶穌の其所に降らせらるゝ時を俟たれた。天主が光榮ある大祖聖ヨゼフを古聖所に送られたのは古の聖人等に救主は已に此世に降らせられて、彼等の天國に昇ることも聽てゞあると知らせて彼等を慰める爲であつた。古聖所の聖人等は聖ヨゼフの來られたのを見て大に歡び彼を救主の先驅として迎へた。斯やうに古の聖人を慰藉られた聖ヨゼフは今煉獄に苦しむ靈魂をも慰藉めて之を扶助けらるゝである。又聖ヨゼフが最愛の耶穌と聖マリアとに別れて古聖所に止まられるとは彼の爲に

は寔に忍び難いことで大いなる犧牲であつた。聖ヨゼフに對する敬虔の心念を以て、聖ヨゼフの此犧牲を煉獄の靈魂の爲に天主に献げて祈をするなら最も天主の聖慮に適ひ、煉獄の靈魂の爲に大いに援助となり、又自分の爲にも大いに功徳となるのである。聖ヨゼフは古聖所に於て聖子耶蘇、イエズスを待乗ねられた經驗があるから、煉獄に於て天國を待ち兼て居る憫れな靈魂に同情を寄せ、之を救助けることを深く望まれ、隨て自分と志を同ふして煉獄の靈魂を救助ふ爲に善業を行ふ者のあることをも望まれるのである。それで煉獄の靈魂の救助の爲に善業を行ふことは聖ヨゼフの御意に適ふ行爲であつて又自分の爲にも御恵を求

める優れた道である。

實話

聖心會の學校を卒業した一人の貴婦人があつた。何か天主の御光榮の爲に一の慈善事業を起したいものと思ひ、天主に祈り其默示を受けて、煉獄の靈魂を救ふ爲の修道院を創立てることゝした。其會の目的は勞働、苦業、祈禱などを行ふて煉獄の靈魂を救濟ることであつた。アルスと云ふ所の有名なる司祭福者ウヤンネは此の事業を大いに贊成して創立者に力を添へ此會の發展ることを計られた。創立者は此會の名を煉獄靈魂の救濟會と附け、煉獄の靈魂の扶助なる聖ヨゼフを以て

本會の守護と頼み、修院の中央に聖ヨゼフの聖像を据へることゝ定めた。不思議にも此事を決定した翌日門衛が一の立派な聖像を持て來た。其像は恰當聖ヨゼフの聖像であつた。併し其献納者は誰であつたか知る者がなかつた。

祈願

嘗て古聖所に止まりて救主の御降臨を待ち給ひし聖ヨゼフ、煉獄に止まる我等の親族、恩人、其他諸信者の靈魂を憫み、彼等を助けて早く永遠の安息を受くるに堪ゆべき者とならしめ給へ

第二十三日

信德の模範なる聖ヨゼフ

「天主の能力の顯はれてない者を天主と信ずるは是れ信仰の奥義である」と博士ボスエは曰ふた。實も天主の能力の顯はれてあるものを天主と信ずるのは不思議ではない、隨つて功德でもない。聖ヨゼフの信德が如何に優れてあつたか又如何に堅固であつたかと知る爲には、耶蘇キリストの一生涯を二の方面より觀察ねばならん。耶蘇キリストは一生涯の中に御自分の天主なる權威と能力とを深く祕して全く無能な者と見えて居られた時と御自分の天主なる能力を示された時とがある。孩兒となつて生れ馬槽に置かれ、母の乳を飲み、父母の手に抱かれ、ヘロデの迫害を免れん爲に携へられてエヂプトに逃げられし時の如き

は全く天主の能力の隠れた時であつた。併し三十歳の時に至つて公に世に出で〻三年の間ユデアを廻り權威を以て教を說き、ファリザイ人や教師等の傲慢を挫き、僞善を戒められ又夥多の奇蹟を行はれし時などは耶蘇キリストの天主の能力の顯はれた時であつた。然に聖ヨゼフが耶蘇キリストを天主と信じて毫末も疑はれなかつた時は、恰當耶蘇キリストの天主の能力の全く隱れて些しも顯はれん時であつた。是れ聖ヨゼフの信仰の最も堅固なる證である。聖書の中に聖ヨゼフは義人と呼れてある。預言者ハバククは「義者は其信仰に依つて生く」と云ふた、此言はよく聖ヨゼフに適當するのである。

ルイ、ダンワンと云へる人があつた。幼少の頃は熱心な母の教育を受けて教の務に熱心で品行も方正しかつたが、十四歳の時に某指物師の家に弟子に遣られ、不幸にして不良ぬ朋友と交際い、所謂朱に交はれば赤くなるで、漸次に信仰は衰へ品行は亂れて、遂には全く異教者のやうに成つたことが六年の久しい間であつた。ある時師匠は彼を町より十里も隔つた所にある修道院に仕事に遣つた。彼は此處に止つたことが三ケ月間であつた。閑靜な修院の事とて酒は飲まれず、友朋の冗談は聞かれず、初の一週間で早已に退屈を覺えだした。あ

る晩のことであつた。書棚の上にある一冊の古い書物に目が附いて之を披いて見ると、聖ヨゼフの傳であつた。彼は兼て無益な小説などは好んで讀んでも、斯やうな聖いものには見向きもした事はなかつたが、慰み半分最初の一枚を讀み、讀むに隨つて次第に趣味を感じ遂に一巻を讀み終ると更に今迄覺えたことのない愉快を心に感じて曰ふた、噫自分は今まで始終世上の事の中にのみ快樂を求めて反つて心は常に苦に充ちてゐたに、聖ヨゼフは艱難辛苦の中にも心は常に喜悦に満て居られたとは、聖ヨゼフの得られた事を自分も何に得られん道理があらうぞと、過し方の罪を深く悔み、修院長の前に

行つて告白をし、其後は全く行狀を改めて熟心な信者となつた。

祈願

眞理の源なる天主、主が聖公會に垂れて我等を諭したまへる教を悉く信じ奉る、願はくは聖ヨゼフの御傳達に因つて此信仰を堅固からしめ給へ。

第二十四日

望徳の模範なる聖ヨゼフ

使徒聖ヨハネは其書簡の中に「此希望を有する人は、猶彼も潔く在すが如く、己を潔からしむ」と曰ふた。人は此世に於て

天主の攝理の奥義を悉く知ることが出來ぬ。唯天主の攝理に身を委ね、終なき天國の幸福を希望して天主の聖慮に適ふやうに自分の務を勵まねばならん。天主に深く依賴希望することは即ち自分を聖くするの道である。聖ヨゼフは如何なる試や艱難辛苦に逢ふても、些も失望落膽せず、深く天主に依賴希望して居られた、其望德の堅固なことば實に盤石のやうであつた。聖ヨゼフはベトレヘムに於て、ナザレトに於て、エヂプトに於て至る所艱難辛苦に逢はれても常に天主に依賴し、天國の幸福を希望し、又耶蘇キリストの側にあることを樂として一切の苦を全く忘れられた。聖ヨゼフは赤貧であつても天國の寶を希望し

又耶蘇キリストが自分の子であることを覺えて百萬の資産家にも優る心持で居られた。聖ヨゼフは身分が卑かつても、天の位を望み又耶蘇キリストの養父であることを思ふて、世の高位高官の者よりは遙に滿足して居られた。耶蘇キリストは全く聖ヨゼフの希望の源で、耶蘇キリストと共に在ることは聖ヨゼフの爲には天國で之に離るゝことは地獄であつた。

實話

某村の神父が初聖體の二日前小供を集めて公教要理を說き明して居られた時、突然一人の荒男が來て、小供等の中央に立ち恐しい顏色で皆を凝視めて居た。神父は彼に何の爲に此處

に來たかと尋ねられると、彼は我が妻は縱令公敎信者であつても、自分は信者でないから、兒が聖體などを授かることは不承知である、それで兒を呼びに來たのだ、と聲荒々と答へながら强て自分の兒の手を引いて家に歸つた。小供は涙を流して神父に自分を忘れぬやう自分の爲に祈られん事を願ふ、其聲も濕りがちにて實に憫れに見受けられた。神父は小供等が初聖體を拜領する日は聖ヨゼフの祝日でもあれば、特に其小供の爲に聖ヨゼフの援助を祈られた。扨祝日の朝になつて可愛い小供等は各々初聖體の晴着を着て悦しさうに皆聖堂に集つて來たに、其小供の姿ばかりが見えないから、神父は噫

吾主耶穌は彼の可憐な羔を棄て給ふたであらうかと思ふ折柄其小供も他の小供等の後に續いて聖堂に入り、皆と共に祈んで聖體を拜領した。後に至つて聞けば、强情な父の心も家に歸つて暫くの後全く變つて快く彼が聖體を拜領することを承諾したとの事であつた。神父は是れ全く——ヘロデの毒手より聖子を助け給ひし聖ヨゼフは自分の祈を聽き容れて彼敬虔な小供を助け給ふたのだと深く其恩を感謝せられた。

祈願

至善なる天主、我に終なき生命と之を得べき聖寵とを與へ給はらんと希望み奉る。願はくは聖ヨゼフの御傳達に因つて此望德

を堅固らしめ給へ。

第二十五日　愛徳の摸範なる聖ヨゼフ

使徒聖パウロがコリント人に贈つた書簡の中に「今存する者は信、望、愛此三なれども、就中最も大いなるのは愛なり」と記して信、望、愛の三の對神徳の中にも最も大いなるものは愛徳であることを訓へてある。聖ヨゼフは寔に此愛徳の摸範である。天主が聖マリアを救主耶蘇キリストの母と定め給ひしとき、之に聖子に對する母の心、母の熱愛を與へられしやうに、聖ヨゼフを救主耶蘇キリストの養父と定め給ひしときにも之に

聖子に對する父の心、父の愛情を附與せられたから、聖ヨゼフは天主なる耶蘇キリストに對して絶えず愛熱が燃え立つてあつた。又凡て愛は其對する所の者の徳の大小に因つて深淺の別があるのは人情であるから、聖ヨゼフは耶蘇キリストの神なることと又其御徳の限なきことを善く知り、量なきの愛情を以て之を愛せられた。又耶蘇キリストに對して人々をも深く愛せられた。如何なる困難も此愛の爲に甘じて凌ぎ、一切萬事を此愛の爲に行はれた。聖パウロの言に「愛は堪忍し、情あり、己の爲に謀らず、怒らず」とある。我等も聖ヨゼフに倣ふて此愛徳を守るは我等の大切な務である。アルスの司祭福者ウイヤンネは「天

主は禽鳥を歌ふ爲に造られたから歌ふに、人は神を愛する爲に造られたに。何故神を愛せぬぞ」と曰はれた。

實話

ペルトリと云ふ一人の貴婦人があつた。兼て北アメリカのカナダに於て耶蘇會の神父等が不愍なる野蠻人等を救ふ爲に働かるゝ記事を讀んで大いに感じ、自分も何かして斯る有益な事業の補助を爲たいものと考へて居たに。不圖重い病に罹り容體は漸次に危篤になつた。併し彼は如何かして自分の素志を達したいものと思ひ、聖ヨゼフに誓願を立て、其佑に因つて病氣の全快する事を得たなら、必ず其野蠻國の女子を敎育

する爲に自費を以て學校を立て、數育費も寄附することを約束した。此願を立てるや不思議にも病は忽にして全く平癒した。彼は大いに喜び誓願を成就する爲に金を投して校舍を建て敎育費をも献じた。其學校を聖ヨゼフ學校と名附け、其會の印行の徽章として聖ヨゼフが耶蘇キリストを抱いて居らるゝ像を刻んだ。

祈願

愛の源なる天主、我心を盡し力を盡して深く主を愛し奉る。又主を愛するが爲に他人をも我が身の如く愛し奉る。願はくは聖ヨゼフの御傳達を以て此愛德を聖ならしめ給へ。

第二十六日　信心の摸範なる聖ヨゼフ

「信心は萬事に益あり」とは使徒聖パウロの敎訓である。凡そ人たる者が世に於て人の道を全ふし、未來に於て眞實なる幸福を得んが爲には必ず信心の務を熱心に行はねばならぬ。如何なる人も自分の造主、自分の主宰者なる神に服從、尊敬、愛慕などの貢を献納むる義務がある。此貢は祈禱默想などの信心の務を以て拂ふのである。祈禱、默想、秘蹟などは靈魂を養ふ糧、靈魂の病を癒す良藥である又惡魔に尅勝つ武器、天國の門を開の鑰である。今地獄に在る夥多の憫な靈魂に、何故此處に來たかと尋ねるなら、大底は信心の務を怠つたからであると答へるであらう。故に聖女テレヂアは「祈禱、默想などの信心の務を怠る者は、地獄に陷る爲に別に惡魔の働が要らぬ、彼等は自分で地獄に陷るから」と云ふた。扨て聖ヨゼフは寔に完全な信心の摸範であるから、信心の務を熱心に行ひたい者は聖ヨゼフに倣ふのが最も優れた道である。聖ヨゼフは祈禱、默想などの務を熱心に行はれたことは云ふまでもなく、何事を行はるゝも常に天主と共にあり、萬事天主の光榮の爲に行はれたから聖公會は其德を讃て「聖ヨゼフは超性上の事に於ける深い冥想に達した者又其一生涯は絶ねざる祈禱であつた」と曰ふ。又聖女テレヂアは「聖ヨゼフは、人々を信心の務に導く案内者である、其援助

を祈る者は必ず信心の務に進歩むことが出來る」と曰ふた。

實　話

テレジアの如き聖女もある時祈禱、默想等の務に於て些も樂みを感ぜずして、信心の務を熱心に行ふことが出來なかつた事があつた。其時聖ヨゼフに祈り、其佑助を受けて心は大いに變り熱心に信心の務を行ふことが出來た。

伯爵デバリーと云ふ神父が左の物語をした。自分の知つた二人の者があつたが、如何した譯か祈禱、默想等の務に些も感じが起らず、遂には信心の務が厭になつた。二人は此缺點を改める爲に偏に聖ヨゼフの佑助を祈つた。すると不思議にも其祈禱の効驗が直に顯はれて、信心の務に樂を覺ゑ、祈禱默想などの務を完全に行ふやうになつた。

祈　願

萬事を天主の光榮の爲に行ひ、祈禱、默想等の聖き務を行ふに於て常に天主の聖意に適ひ給ひし聖ヨゼフ、願くは我等を佑けて信心の務を完全に行はしめ給へ。

第二十七日　罪人の依托なる聖ヨゼフ

吾主耶蘇キリストは罪を憎んで人を憎み給はず、罪人を悔ひ悛しめん爲に、之を招き、之に近接づきて罪人の友とまで異名せ

られても、些も頓着し給はずして「醫者を要するは健なる人に非ずして病める人なり。汝等往きて『我が好むは憫なり、犧牲に非ず』とは何の謂なるかを學べ。夫我が來りしは義人を召ぶ爲にあらず罪人を召ぶ爲なり」と曰はれた。聖ヨゼフは長の年月耶穌キリストと共に在つて、此慈悲哀憐の心を寫され、耶穌キリストの心を以て自分の心とし常に罪人を憫み、之を召んで「我に來れ、總て勞苦して重荷を負へる者よ、我汝等を回復せしめん」と曰ふて居られる。丁れでペトロ。パトリニヤは「凡そ罪の淵に陷ちたる不幸者は聖ヨゼフに向つて號はれよ、哀憐の父なる彼は必ず救助の網を投げてくださる」と曰ふた。舊約

のヨゼフは他人に對して慈悲の心深く、心寛大にして自分を異邦人に濁つた兄弟等を怨まず、却て彼等を救ひ彼等に恩惠を施した。新約の聖ヨゼフは之にも優つて慈悲哀憐の心深く、自分に依靠る罪人を憫み之を慰めて吾主耶穌の尊前に導いてくださる。聖マリアが救主の母として罪人の依托なるが如く、聖ヨゼフは救主の養父、聖マリアの淨配として罪人の依托である。

實話

某所に一人の青年があつた。一攫千金を望んで種々の事業に手を着け、所々方々を徘廻し、上句の果には大失敗をして無

一物となり、遺憾な事には、全く不信心になつて故郷に歸つて來た。遂には不幸にも不治の肺結核に罹り病氣は日に月に重り、到底全快の希望はなくなつた。所の神父は之を聞いて慨然に思ひ、責ては其靈魂を助けてやりたいものと親切にも態々彼の許に往つて種々樣々に說諭し、悔ひ悛をして告白の祕蹟を授るやう懇に勸められたが、病人は更に聽容るゝ氣色もなく斷然と其厚意を謝絶つた。他の者等も交々彼に立歸を勸むるが、一向承け引く模樣はなく、反て無禮な答を受るばかりであつたから、遂に人々は胥瀆の言葉を聞くのが厭嫌さに、又と彼を諫める者もなくなつた。併し又親切な人があつ

て大敵の期日が來たのを幸と、特別彼の爲に九日修行を行ふて聖ヨゼフの佑を祈つた。すると不思議にも今まで頑固であつた彼の心も俄に變つて、已往の過を深く悔んで聖堂に往き曩の神父に告白することを願ふた。神父は見失はれた羊の見付つたことを大いに喜び、告解の祕蹟を授けちれた。其後數日ならずして彼は熟心に覺悟して一切の祕蹟を授り、善人の臨終を遂けた。

祈願

慈悲深き聖ヨゼフよ、我等罪人の身を以て御前に嘆き御救助を求め、御傳達を願ひ奉る、我等の祈禱を輕んじ給はず哀憐み垂

れて之を聽きいれ給へ。

第二十八日　基督信者の扶助なる聖ヨゼフ

聖ヨゼフは一切の基督信者の扶助である。基督信者の中には、上は金殿玉樓に住はせらるゝ帝王から下は悒せる破家に棲む民草に至るまで種々の階級と境遇の者がある。聖ヨゼフは之等總ての信者の守護である。先づ聖ヨゼフは聖王ダビドの後裔で又萬物の造主、全世界の王なる耶蘇キリストの養父であるから、此世界の王なる者を顧み之に佑を加へられるのである。又聖ヨゼフは從令其祖先が皇帝であつても、自分は並通の人民となつて時の皇帝の司配に服從ふて居られたから人民の辛苦をよく知

つて之を扶助けられるのである。又自ら童貞を守り童貞なる聖マリアを保護せられたことがあるから、世の童貞を守る者を佑けられるのである。曾て世に在りし時其腕に耶蘇キリストを抱いて之を育てられた者であるから、日々祭壇の上に耶蘇キリストを奉擧する司祭を保護し、又毎日額に汗して其日の糧を求めて居られたから、世の勞働者の困難を思ふて之を憐み給ふのである。其外聖ヨゼフは、耶蘇キリストと聖母マリアとの手厚い看護を受け其手に抱かれながら此世を去られたから、信者等にも同樣幸福な臨終を得せしむるやうに死に臨める者を扶助け給ふ者である。

實話

北アメリカのカナダ州に聖ヨゼフの保護の許に設立られた一の病院があつた。ある時一人のプロテスタン徒の婦人が該病院に入院した。其入院の目的は勿論病氣の治療を受ける爲であつて、中々公教信者に立歸るなどの考は夢にもなかつた。然に病院附の修道女等は役の病氣よりも、寧ろ彼が異端を迷信して居ることを氣の毒に思ひ、彼が入院した月が恰當三月であつたから、聖ヨゼフの月の修行を行ひつゝ彼の爲に祈り、且本人に祕して衣服の襞積の間に聖マリアと聖ヨゼフとの二のメダルを縫ひ付けて置いた。ある日一人の修道女が彼

に聖ヨゼフに就いて種々信仰上の物語を聞かせて大いに慰藉を與へ聖ヨゼフの聖像を見せた。病婦は大いに感じ喜んで其聖像に接吻した、其後追々教理の研究を重ね遂にプロテスタン教の誤謬にして、公教が眞誠に基督の教であることを悟り自分の一子と共に全く異端の教を棄て、公教に立歸り、彼等の受けて居た洗禮も正しくなかつたから、改めて神父より洗禮を授つた。洗禮の聖水は喜悦の涙と共に彼等親子の額に流れてあつた。

祈願

基督信者の扶助なる聖ヨゼフ、我等今欵みて爾の御保護に我身

を寄せ奉る。願はくは地上に於ては我等を保護し、天上に於ては我等の代禱を爲し給へ。

第二十九日　幼兒と青年との擁護者なる聖ヨゼフ

聖ヨゼフは耶蘇キリストを養ひ育てた父である。幼き耶蘇キリストの御手を引いて歩ませ、其腕に抱き、其膝に載せて愛した者である。日夜勞働を勵んで、耶蘇キリストの爲に衣食を備へた者も聖ヨゼフである。耶蘇キリストは漸く成長して青年となられても、尚ほ聖ヨゼフの保護と司配の許に居られた。今天國に在して聖公會の擁護者と定められたる聖ヨゼフは、基督信者

の幼兒と青年とを守護して諸の危難を免れしめ、經驗に乏しき彼等を指導き、注意を與へ、情慾や悪魔の誘惑に逢へば、援助を加へて之に克たしめ給ふのである。世の幼兒たり、青年たる者よ、慈悲深き聖母マリアと聖ヨゼフとの間に立つて其御助を願へ、彼等は必ず雙手を延べて汝等を保護し給はん。子女を養ひ育て、之に訓ゆる重き義務を負へる父母なる者よ、聖マリアと聖ヨゼフとに佑を祈れ、彼等は必ず汝等を援けて親の義務を完ふすることを得せしめ、又汝等の子女を幸福に導き給はん。

實話

幼き耶蘇の會と名附けられて專ら兒童を教育する會を司配し

て居られた聖ヨハネ、バプチスタ、ドラサルは幼少の時より聖ヨゼフに對して信心の念深く、常に聖ヨゼフを尊敬して自分の會を其守護に依托せ、會員等に勸めて萬事を聖ヨゼフの光榮の爲に行はしめた。又兒童を教育するに常に其援助を祈り、兒童をして毎日必ず聖ヨゼフの連禱を誦へさせた。又兒童をして聖ヨゼフの祝日を尊ふことを樂しく思はしめる爲に其祝日を特に盛大に行ふた。此聖人は一生の間天主の光榮と人々の救靈との爲に力を盡し、已に功德成就して天國に行く時が來て、不圖病氣に罹り病氣は次第に重り、日々臨終の覺悟をして居られたに、不思議にも聖ヨゼフの祝日に當つて俄

に元氣が回復し其日に易々とミサ聖祭を行ふた。聖祭を行ふて後再び又元の容體となつて遂に聖い臨終を遂げられた。

祈願

幼き耶穌を保護養育し給ひし聖ヨゼフ、世の幼兒と青年とを保護して世俗の罪惡に染せしめず、彼等を導いて、善德を身に修め天主の聖意に適ふものとなちしめ給へ。

第三十日　修道者の擁護なる聖ヨゼフ

修道士、修道女たる者の、是非とも守らねばならん事は、貞操、清貧、從順の三である。加之無言、斷食、祈禱、勞働などの

業もある。勿論會によつて大小規則の異つた所もあるが、何にしても各々自分の會の法則を嚴重に守つて右等の業を行ひ、俗人よりは一層總ての德に於て優れて居らねば、徒に會の法衣を身に纏ふたばかりでは眞誠の修道者ではない。聖ヨゼフは修道士ではない。普通の職工で在られた。併し其行の聖かつたことは修道士よりも遙に優れてあつた。ナザレトの聖家庭は修道院ではない一軒の木匠の家であつた。併し其暮しの聖かつたことは修道院よりも遙に優れてあつた。されで聖ヨゼフは修道者の以て摸範とすべき御方であり、ナザレトの家庭は修道院の以て鑑とすべき家であつた。今熟々ナザレトの聖家庭の情態を見

るに聖ヨゼフは身心潔淨にして貞操正しき聖マリアを深く愛し童貞なる聖マリアは聖ヨゼフを自分の淨配、家の主人として尊敬し、耶蘇キリストは聖マリアと聖ヨゼフとに孝行を盡し從順を守り、一家三人清貧に安じ、身を勞働に委ね、粗食に甘じ麁服を纏ひ、時に大齋を行ひ、屢々祈禱を爲し、何事を行ふも心は常に天の一方に向つてあつた、其暮し方の神々しいことは如何に立派な修道院でも恐らくは之には及ぶまい。故に修道者たるものが聖家族に倣ふて志を立て身を修むるならば、必ず立てたる誓願を守ることは最も易く、克己、制慾などの苦業を守り、默想、祈禱などの聖務を行ふは次第に樂となつて遂に完全

な修道者となることは必然である。

實話

曾てある國に一人の熱心な少女があつた。幼い時より天主の勤奨を心に感じ、修道女となつて生涯全く天主に仕へることを一心に望んで居た。併し遺憾なことには彼は家の一人女で父母は到底之を承諾しさうにはなかつた。それで詮方なく、窃に吾家を出て、父母に謀らず獨斷でカルメル會の修道院まで行つた。父は之を知つて大いに憤り、早速修道院に驅け付けて女を家に連れ歸つた。女は強いて父の意に逆ふなら、修道院の人々にも迷惑を掛けんかと畏れ、父に隨ふて家に歸つ

た。其後ち屢次父に修道女となるの許諾を願ふたが、父は更に聽容れる氣色はなかつた。ところが今度は不思議にも父の心は又重ねて父に願をした。遂に女は聖ヨゼフに願立をして全く變り、快く入院することを承諾した。女は大いに喜んで再び修道院に來た。其日は恰當聖ヨゼフの大祝日であつた。

祈願

多福なる聖ヨゼフよ、汝は家庭の生活を營むと共に又修道者の行を爲して彼等に模範を遺し給ひたり、願はくは修道者を守護し、永く天主の特恩を保ち、完德に達せしめ給へ。

第三十一日　聖公會の保護者なる聖ヨゼフ

聖ヨゼフは天主より選ばれてナザレトの聖家の主人となり、聖家族の長となり、其家を司配し、其家族を養ひ、諸の危難の中に之を保護した者であるから。今此世の聖公會をも保護せらるるのである。抑も聖公會は耶蘇キリストが萬民の救の爲に建設られた家である、耶蘇キリストを奉戴する信者の團體である。それで聖ヨゼフ又耶蘇キリストの最も愛せらる羊の群である。昔耶は昔ナザレトの聖家を保護したやうに今聖公會を保護し、昔耶蘇キリストを危難の中に救ふたやうに今聖公會の頭領なる教皇をも諸々の危難の中に救ひ給ふ者である。又聖公會の初代から

聖ヨゼフが一個の家庭或は一個人を保護し援助けられた例は尠くない、さらばキリストの家なる聖公會、キリストの代理者なる教皇を保護し援助けらるゝのは當然の事である。有名なる博士ゼルソンはコンスタンス公會議に於て議會全體に發議して、其當時大いに困難に遇ふて居た公教會を救ふには、聖ヨゼフに對する特別なる敬虔の務を定め、人々をして之を行はしめ、其の有力なる援助を祈るの有益且必要なる事を熱心に說き人々をして大いに感動せしめられた。其時より愈々聖ヨゼフに對する崇敬の道は盛大に行はるゝやうになつた。

聖ヨゼフに對する信心の務が公教會の初代より行はれたものであることは云ふまでもないが、此務は年を經るに隨つて愈々盛大になるのである。前教皇レオ十三世陛下には聖ヨゼフに對する敬虔の念最も深く、全世界公教信者に命じて迫害に逢ふ公教會の擁護と救助を聖ヨゼフに祈らせ、又特に祈禱を定めて一般司祭及信者にミサ聖祭後に之を誦へしめ且十月ロザリオの月には特別聖ヨゼフに祈をし、毎年聖ヨゼフの祝日前には九日若くは三日の修行を行ふことを勸告められた、特に千八百八十一年の大赦令の時に御自分の聖ヨゼフに對する敬虔と信頼を表はし、勅語の中の「聖マリアの淨配にして、

前教皇ピオ九世陛下より全聖公會の守護者と定められたる聖ヨゼフの御佑の許に此大赦を依托せ奉る、故に汝等我最愛の信徒たるもの日々熱心に聖ヨゼフに祈るべし」との語を記された。又此大赦を聖ヨゼフの御保護に依托けられたる證として三月十九日聖ヨゼフの祝日に全贖有が蒙り得らるゝことを御定めになつた。

祈願

我等の依托と能力にて在す天主、哀憐を垂れ、主に叫ぶ此民を顧み給へ、聖ヨゼフの傳達に由つて罪人は改心し、母なる聖會は自由と光榮を得んことを偏に祈り奉る。

○聖ヨゼフの連禱

○主憐み給へ　○主憐み給へ

△基督我等に聽き給へ　△基督憐み給へ

天主たる御父　｜　我等を憐み給へ

世の贖主たり天主たる御子　｜　同

天主たる聖靈　｜　同

一天主なる聖三位　｜　同

聖マリア　｜　我等の爲に祈り給へ

聖ヨゼフ　｜　同

ダビドの譽高き後裔　｜　同

諸先祖の光明　｜　同

天主の聖母の淨配　｜　同

童貞マリアの操正しき守護者　｜　同

天主の御子の養育者　｜　同

基督の注意深き防衛者　｜　同

聖族の首　｜　同

最も正義なるヨゼフ　｜　同

最も貞操なるヨゼフ　｜　同

最も愼み深きヨゼフ　｜　同

最も勇氣あるヨゼフ　｜　同

最も従順なるヨゼフ　同
最も忠實なるヨゼフ　同
堪忍の鑑　同
清貧の愛好者　同
職人の模範　同
家庭生活の榮譽　同
童貞の守護者　同
家庭の柱石　同
不幸者の慰安　同
病者の希望　同

死に臨める人の擁護者　同
惡魔の恐怖　同
聖會の保護者　同

△主我等を赦し給へ
世の罪を除き給ふ神の羔

△主我等の祈を聽容れ給へ
世の罪を除き給ふ神の羔

△我等を憐み給へ
世の罪を除き給ふ神の羔

○天主之を立てゝ己が一家の主と爲し給ひ
△其總の所有物を宰らしめ給へり

（祈願）絶妙なる攝理により福者ヨゼフを至聖なる御母の淨配と選み給たる天主、希くは地上に於て之を保護者と尊敬し奉る

我等を、天に於て其代禱を蒙るに耐ふべき者たらし給へ、世々活統治し給ふ主よ、アメン。

○聖ヨゼフに祈る文

（十月中玫瑰花冠の祈禱に之を加ふ）

多福なるヨゼフよ、我等困難の中に於て爾に依靠り且已に爾の最尊き淨配の扶助を求めたれば、亦爾の保護をも頼もしく願ひ奉つる。爾は天主の聖母たる汚玷なき童貞と結合ひたる寵あり、幼き耶穌に盡したる父の愛あれば、亦耶穌基督が其の血を以て買得たまへる家督を一層憐みて顧み、且つ總て我等の急に迫れる時、助力と救援とを下し給はんことを伏して願ひ奉る。

ナザレトの聖族の最忠實なる守護者よ、耶穌基督の撰裔を守り給へ。仁慈深き父よ、我等のために諸の迷誤と腐敗の傳染を防ぎ給へ。最強き保護者よ、我等が闇の權威と戰ふを憐みて、天より援助を垂れ給へ。又昔幼き耶穌を生命の危險より救ひし如く、今も天主の聖會を守りて敵の圈套と一切の困難を免かれさせ給へ。且常に我等を盡く保護し、我等をして爾に倣はしめ御救助に賴りて聖にして存へ、信心を以て死し天國の永遠なる福樂に至ることを得せしめ給へ。亞孟

○聖家族に對し奉つるの祈禱

最と愛み給ふ耶穌、主は妙なる善德と家庭生活の龜鑑を以て地

上にて選み給ひし一族を聖ならしめ給へり、今主の足下に平伏て、御愛憫を願ひ奉つる我等の家族を、寛仁を以て顧み給へ、此家族は特に己を主に献げ且つ任せ奉つりたれば、主の物なることを記憶え給へ、願はくは慈悲を以て之を守り、危険より救ひ、必要の時に之を助け、且徳を賜ひて、絶えず主の聖族に倣はしめ給へ、而して生涯忠を盡して、主を敬ひ愛し奉つり、遂に天堂に於て永遠に主を讃美するを得せしめ給へ。最も甘味なる母マリア、我等は神なる御獨子の、必ず御祈禱に應じ給ふべきを固く信じて、偏に御扶助を希ひ奉つる。最も永福なる聖祖ヨゼフ、堅固なる御保護を以て我等を助け、且つ我等の願ひを

耶蘇基督に献げん爲め、之を聖マリアの手に傳へ給へ。

○聖族に依頼み奉つるの祈禱

聖蘇、マリア、ヨゼフよ、我が心と精神と生涯を御手に托せ奉る。

耶蘇、マリア、ヨゼフよ、臨終の悶の時吾をたすけ給へ。

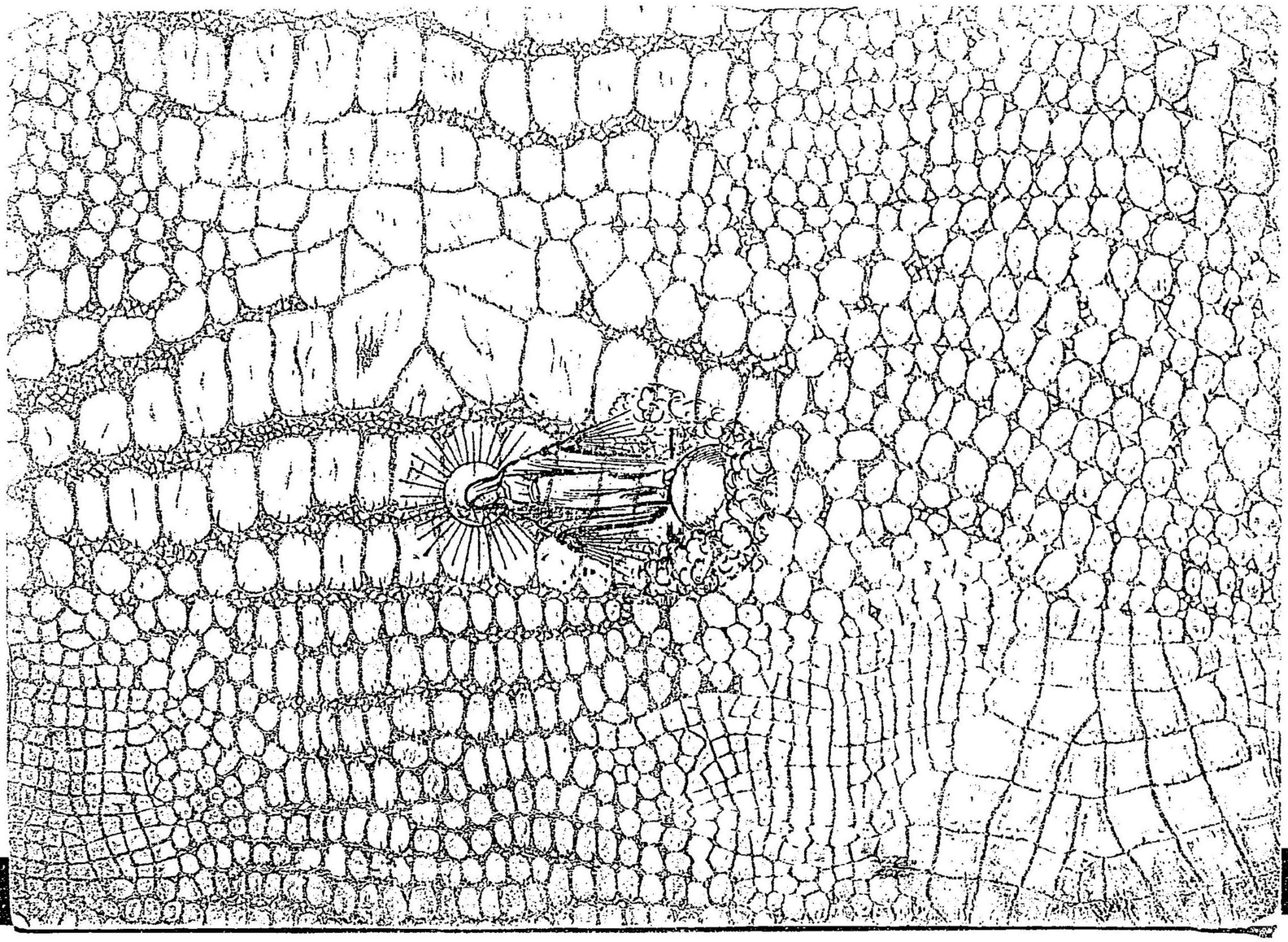
耶蘇、マリア、ヨゼフよ、我を聖き御會に置て安全に息絶ゆるを得せしめ給へ。

聖ヨゼフの月　終り

明治四十五年二月廿八日印刷　（定價金拾五錢）
明治四十五年三月一日發行

不許復製

大阪市北區富島町五十八番地
編　者　天主公教會
代表者　永田辰之助
大阪市東區左官町五二四番地
發行者　ペ、マルモニエ
仝　所
印刷者　杉山國司
同　所
印刷所　聖若瑟教育院活版部

270

32